

2024年度日本政府（文部科学省）奨学金留学生
JAPANESE GOVERNMENT (MEXT) SCHOLARSHIP FOR 2024

日 本 語 ・ 日 本 文 化 研 修 留 学 生
コ ー ス ガ イ ド
①

COURSE GUIDE OF
JAPANESE STUDIES PROGRAM
①

番号 No.	大 学 名 Name of University	所 在 地 Location	掲載ページ Page	研修コース Type of Course
国立大学 National University				
1	北海道大学 Hokkaido University	北海道札幌市 Sapporo-shi, Hokkaido	 1	(a)(b)
2	北海道教育大学 Hokkaido University of Education	北海道札幌市 等 Sapporo-shi, Hokkaido etc.	 4	(a)(b)
3	弘前大学 Hirosaki University	青森県弘前市 Hirosaki-shi, Aomori	 6	(a)(b)
4	岩手大学 Iwate University	岩手県盛岡市 Morioka-shi, Iwate	 9	(a)
5	東北大学 Tohoku University	宮城県仙台市 Sendai-shi, Miyagi	 12	(a)
6	秋田大学 Akita University	秋田県秋田市 Akita-shi, Akita	 15	(a)
7	山形大学 Yamagata University	山形県山形市 Yamagata-shi, Yamagata	 18	(b)
8	茨城大学 Ibaraki University	茨城県水戸市 Mito-shi, Ibaraki	 21	(a)

番号 N0.	大 学 名 Name of University	所 在 地 Location	掲載ページ Page	研修コース Type of Course
9	宇都宮大学 Utsunomiya University	栃木県宇都宮市 Utsunomiya-shi, Tochigi	 23	(a)
10	群馬大学 Gunma University	群馬県前橋市 Maebashi-shi, Gunma	 26	(a)
11	埼玉大学 Saitama University	埼玉県さいたま市 Saitama-shi, Saitama	 29	(a)(b)
12	千葉大学 Chiba University	千葉県千葉市 Chiba-shi, Chiba	 32	(a)

<Note>

1. 「研修コース」(Type of Course)

(a) ... 主に日本事情・日本文化に関する研修
A course intended mainly to study about Japan and Japanese culture

(b) ... 主に日本語能力の向上のための研修
A course intended mainly to improve Japanese language proficiency

2. 具体的な研修内容など、大学を選択する上で分からないことがある場合は、必ず大学へ問い合わせてください。
If you have questions about the detail of the training program, please contact the university directly.



北海道大学 (北海道)

北海道で日本語のスキルともうひとつの日本を学ぶ

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

北海道大学は、我が国における最初の高等農事教育機関として1876年に開設された札幌農学校に始まります。開設当時、札幌農学校は米国マサチューセッツ農科大学長であるウィリアム・S・クラーク博士を迎え、豊かな教養と高度の知識・技術を教授されました。クラーク博士の“Boys, be ambitious”の言葉に代表されるフロンティア・スピリットは、開学以来140年余にわたって本学の建学精神として受け継がれています。1919年、医学部が設置されると同時に従来の農科大学は農学部となり、その後、工学部、理学部等が設置され理科系の総合大学へと発展しました。1947年、文科系の学部が設置され初めて現在の「北海道大学」という名称が誕生、2年後の1949年には、新制の北海道大学が発足し、7学部1教養学科が設置されました。1953年には新制の大学院が設置され、現在12学部、21の大学院及び22の研究所・センター等を有する日本有数の総合大学です。

学部名：

文学部・教育学部・法学部・経済学部・理学部・
医学部・歯学部・薬学部・工学部・農学部・獣医学部・水産学部

教員数： 1,963名

学生数： 学部 11,315名、大学院 6,585名、
研究所等 157名 計 18,057名

② 国際交流の実績

大学間交流協定数：51カ国・地域、197協定・201機関
(2023年4月1日現在)

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生(日研生)の受入れ実績

2023年：留学生数2,129人、日研生18人(国費)

2022年：留学生数2,024人、日研生19人(国費)

2021年：留学生数2,057人、日研生16人(国費)

④ 地域の特徴

北海道大学は、日本の北部、豊かな自然に恵まれた北海道にあります。大学のメインキャンパスは札幌の市街地にあり、美しい都市において必要なもののほとんどは、徒歩圏内にあります。港町である函館市にもう一つのキャンパスを持つ北大は、まさに日本の北方圏における革新的なフロンティアです。

○北海道大学へのアクセス：

東京 — 札幌間：飛行機で約90分

大阪 — 札幌間：飛行機で約120分



■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

- a) 主に日本事情・日本文化に関する研修
- b) 主に日本語能力の向上のための研修

② 研修・コースの特色

日本語・日本文化の双方に関する研究・調査活動に役立つ日本語能力の育成と、研究に必要な基礎知識、方法論・技能等の修得・運用を通じた日本語・日本語文化理解を目的とするコースです。プログラムの中で受講生の日本語能力の向上を図り、また、日研選択科目、多文化交流科目、国際交流科目の履修を通じて、日本文化・社会についての多様な指導を行います。

③ 受入定員

40名(大使館推薦15名、大学推薦5名、他私費留学生)



④ 受講希望者の資格、条件等

受入の資格・条件としては、以下の全ての要件を満たすこととします。

a. 身分及び専攻

外国(日本国以外)の大学に在籍し、日本語・日本文化に関する専攻課程を主専攻として履修している者。(ただし、1年生を除く)

b. 日本語能力

申込時に、中級レベル(日本語能力試験N3以上に合格している者又は同試験の合格者と同等の日本語能力)以上の日本語能力を有する者。

⑤ 達成目標

a. 「話す・聞く・書く・読む」のそれぞれの技能において、各自が自己の目標を達成できるような日本語運用力を身につけること。

b. 各自の研究分野において、まとまった成果が発信できるような知見・日本語力を獲得すること。

⑥ 研修期間(在籍期間)

研修期間：2024年9月下旬 ～ 2025年8月下旬
(在籍期間：2024年10月1日～2025年8月31日)

⑦ 奨学金支給期間

2024年10月 ～ 2025年8月

⑧ 研修・年間スケジュール

(第1期：9月～2月)

9月下旬：渡日

9月下旬～10月初旬：オリエンテーション

10月初旬：第1期授業開始

12月末～1月初旬：冬季休業

(第2期：4月～8月)

4月10日頃：第2期授業開始

6月第1金曜日から日曜日まで：大学祭

8月下旬：帰国

⑨ コースの修了要件

第1期及び第2期を通して、選択必修科目(日本語科目)から10単位以上を含み20単位以上修得することを修了要件とします。この要件を満たした者には修了証書を授与します。なお、プレースメントテストにおいて初級レベルと判断された者は、初級クラスの受講となります。初級科目の単位は修了要件に含まれないため、最終的に修了要件を満たさない場合、修了証書は発行されません。

※単位認定、単位互換等について

各期末に学生に対して成績表を交付するとともに、コース終了後、成績証明書を交付します。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

日本語を学習する選択必修科目と、日本語・日本文化に関する講義からなる選択科目により構成されます。

2) 研修・コース開設科目

I) 必須科目

区 分	授業科目	単位
選択必修科目 (日本語科目)	中級日本語	1又は2
	上級日本語	2

第1期及び第2期を通して、選択必修科目(日本語科目)10単位以上を修得してください。中級日本語科目または上級日本語科目を履修します。それぞれ、日本の大学での研究生活に必要な「やりとり」「表現」「理解」のスキルを養うことを目的とし、1週間に7～9コマ(1コマ90分)程度履修します。

選択必修科目(日本語科目)のみ、学生が渡日前にオンラインで受験するプレースメントテストによりクラス分けがなされ、日本語能力別に中級レベル及び上級レベルのクラスを受講します。初級レベルと判断された場合は、初級レベルのクラスの受講となり、初級科目の単位は修了要件の単位には含まれません。

II) 選択科目

区 分	授業科目	単位
選択科目	異文化研究	2
	日本語研究	2
	日本文化研究	2
	特別講義	1, 2, 3又は4
	自主研究	2

選択科目には、日本人との共修科目である「多文化交流科目」(異文化研究)や、「日本語の文法」、「日本語の表記」、「日本の歴史」など日本語・日本文化研修生のためだけの講義科目(日本語研究・日本文化研究)が含まれます。

また、選択科目については、国際交流科目の「国際交流Ⅰ・Ⅱ」、全学教育科目又は各学部で開講される専門科目の履修をもって、当該選択科目の履修に代えることができます。

※日本語科目の授業概要は下記ホームページで閲覧が可能です。

北海道大学高等教育推進機構国際教育研究部
(<https://isc.high.hokudai.ac.jp/>)

> 日本語科目 > 一般日本語コース

> 日本語授業概要

3) 研修科目で地域の見学や地域交流等の参加出来る科目及びその具体的な内容

選択科目の「多文化交流科目」(異文化研究)は、毎学期10科目前後開講されますが、その中には「北海道大学を発見しよう」など、見学を行う科目も含まれています。

4) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

選択科目の「異文化研究」は留学生と日本人学生が共に学ぶ「多文化交流科目」が主となります。

⑪ 指導体制

・1) 専任教員

氏 名	所 属	職 名	専 攻
小林 由子	高等教育推進機構	教 授	日本語教育・学習科学
鄭 惠先	高等教育推進機構	教 授	日本語学・社会言語学
平田 末季	高等教育推進機構	准教授	語用論・認知言語学
杜 長俊	高等教育推進機構	准教授	地域日本語教育・会話分析
山畑 倫志	高等教育推進機構	講 師	文章表現法・インド哲学
近藤 弘	高等教育推進機構	講 師	日本語教育・ライフストーリー研究

・2) 個別指導

a. 学業面

コース・ディレクターが必要に応じて個別指導を行います。

b. 生活面

1年間を通して、カウンセラーが必要に応じて相談業務にあたります。

■宿 舎

北海道大学には、恵迪寮(单身男子)、霜星寮(单身女子)、北大インターナショナルハウス(单身、夫婦、家族)の宿舎があり、日本語・日本文化研修生は上記のいずれかへの入居が可能となっています。

【ウェブサイト】

<https://www.oia.hokudai.ac.jp/cier/housing/>



■修了生へのフォローアップ

修了生は、出身大学の学部に戻り、本コースにおける日本語・日本文化に関する研修成果を生かし、卒業に向けて学習を継続することになります。

本コース修了生の中には、出身大学を卒業後、日本に戻ってくる人も多くいます。日本で就職した者や本学の大学院修士課程の学生として在籍している者も少なくありません。なかには、本学の教員として採用されている者もいます。

大学院進学希望者に対しては、コース在学中に、ディレクターが相談に応じます。また、日本での就職希望者に対しては、北海道大学のキャリアセンターがセミナーや情報提供を行っています。

また、修了後もSNSなどを通じて交流が続き、「国際的な人間関係ができたこと」を成果としてあげる修了生も少なくありません。



■問合せ先

<担当部署>

北海道大学学務部国際交流課

住所：〒060-0815

北海道札幌市北区北15条8丁目

TEL： +81-11-706-8058

FAX： +81-11-706-8067

Email： jlcsp@oia.hokudai.ac.jp

<ウェブサイト>

日研コースのホームページ:

<https://www.global.hokudai.ac.jp/admissions/exchange-student-admissions/exchange-programs-in-japanese-jlcsp/>

北海道大学:

<https://www.hokudai.ac.jp/>

担当教員：小林 由子



北海道教育大学 (北海道)

日本語や日本文化，教育制度，北海道の文化や社会を学習できます。

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

北海道教育大学は，教育学部1学部が5つのキャンパス（札幌，函館，旭川，釧路，岩見沢）に分かれており，日本語・日本文化研修留学生は，札幌キャンパスで学びます。

札幌キャンパスに設置された教員養成課程では，札幌の特色を活かしながら北海道全域にわたって教育現場に密着した教員養成を行います。

② 国際交流の実績

国際交流協定教育機関14か国/地域 36大学

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

2023年：留学生数 58人、日研生 4人

2022年：留学生数 50人、日研生 4人

2021年：留学生数 13人、日研生 4人



浴衣着付体験と北海道開拓の歴史村訪問の様子

④ 地域の特徴

北海道は，日本の最北端に位置し，世界自然遺産の知床をはじめ雄大な自然に恵まれ，食文化も優れていることから，観光地としても有名です。北海道の夏は，台風の影響が少ない上，日本の他の地域に比べると気温が低いため，とても過ごしやすいです。

また，冬は雪が積もり，気温が -10°C 以下になる地域もありますが，スキーや雪祭りなど，冬の楽しみも体験できます。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

a) 主に日本事情・日本文化に関する研修

学生の教育，地域性を生かした人材育成，課程との連携を重点として，日本文化・日本事情について深く学ぶ。

b) 主に日本語能力の向上のための研修

北海道教育大学において学習・研究活動を行うために必要な基礎的な日本語能力を身につける。



② 研修・コースの特色

本プログラムでは，留学生向けに用意された日本語を学ぶ授業と日本文化を学ぶ授業の両方に参加することができます。全ての授業は日本語で行われており，日本語能力に応じて日本人学生向けの授業の受講を許可されることもあります。

大学の授業に加えて，学生サークル(クラブ活動)に参加することで，日本人学生とのさまざまな交流ができます。また北海道の大自然や文化を学ぶ研修旅行もあります。

③ 受入定員

5人（大使館推薦 3人、大学推薦 2人）

④ 受講希望者の資格、条件等

- ・日本以外の大学学部にて在学し，日本語・日本文化に関する分野を専攻し，日本語の初級レベルの学習を終了した者。
- ・日本語・日本文化に関する分野以外の専攻に在籍している場合であっても，日本語・日本文化に強い関心を持ち，継続的に学習している者。

※日本語能力試験N以上取得，又は日本語学習時間数300時間以上が望ましい。

⑤ 達成目標

日本語での日常会話がほぼ普通に話せるようになること。具体的には，日本語能力試験N2以上に合格できる能力を身に付けること。

⑥ 研修期間（在籍期間）

研修期間：2024年9月下旬 ～ 2025年8月下旬
（在籍期間：2024年10月1日～2025年8月31日）

⑦ 奨学金支給期間

2024年10月 ～ 2025年8月

⑧ 研修・年間スケジュール

9月下旬：渡日
10月：オリエンテーション
6月：研修旅行（予定）
8月：修了式
8月下旬：帰国

⑨ コースの修了要件

決められた日本語教育科目、日本事情・日本文化関連科目の受講（以下⑩を参照）し、プログラムを修了した者には、修了証を授与し、成績証明書を発行します。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

研修・コース科目の特徴

学習・研究活動を行うための基礎的な日本語を身に付ける「日本語集中コース」（必須科目のa)～e)を履修するコース）、日本語・日本文化・日本社会についての研究を行う「日本研究コース」f)～i)があります。（日本語能力検定試験N1程度の留学生は日本語集中コースの履修が免除されます。）全ての授業が日本語で行われます。

【前半期】（7コマ以上）

-----必須科目-----

a) 「総合日本語」

（非N1:10月-2月 週4コマ, N1:免除）

日本語の4技能を総合的に高めるとともに、日本事情に関する理解を深めます。

b) 「日本語技能」

（非N1:10月-2月 週2コマ, N1:免除）

日本での生活や学習において必要となる実践的な日本語の能力を高めます。

c) 「日本語会話」

（非N1:10月-2月 週2コマ, N1:免除）

様々なテーマについて日本語で会話しながら日本語の能力を高めたり日本についての理解を深めます。

-----選択科目-----

d) 一般学生向けの授業

（N1:10月-2月 週7コマ）

一般学生向けの授業の中から必要科目数以上選択して、日本人学生と一緒に受講します。

e) 「現代日本文化」

（非N1:10月-2月 週2コマ）

講義とディスカッションを通して日本の現代文化について学びます。

【後半期】（7コマ以上）

-----必須科目-----

f) 留学生向けの体験型講座

（4月-8月 週1コマ）

日本の文化や社会について実体験を通じて学びます。内容は年度や季節によって変わります。
※2023年度は浴衣着付体験、風呂敷講習、北海道開拓の村見学等を実施。

g) 日本語文章作成のための講座

（4月-8月 週2コマ以上）

各自が興味を持つテーマについて、小論文を執筆します。それに必要な日本語作文の力を付けるための講座です。

h) 日本の文化や社会についての留学生向け講座

（4月-8月 週2コマ）

日本の文化や社会の特色や特質について、講義・講演を聞いて学びます。内容は年度や学期によって変わります。

-----選択科目-----

i) 一般学生向けの授業

一般学生向けの授業の中から科目を選択して、日本人学生と一緒に受講します。

⑪ 指導体制

責任教員：中川 大（哲学）

国際交流・協力センター

札幌校センター長

協力教員：開設科目担当教員

大賀 京子（日本語教育）

阿部 二郎（日本語教育）

国際交流・協力センター教員

■宿 舎

留学生用の寮はありません。札幌市内の民間学生寮を紹介します。

①過去3年間の日研生の宿舎入居状況

大学が紹介した民間学生寮に入居。

②宿舎費（月額）

●民間学生寮 62,000円（光熱水料費、食費込み。）

※大学までの通学費用等が別途かかります。

■修了生へのフォローアップ

修了後のキャリアパス

帰国後に本国の大学を卒業し、日系企業への就職を果たし、日本語を使用して勤務されている方が多数います。

また、本国や日本の大学院へ進学し、日本もしくは日本語に関わる研究をさらに進めている方々もいます。中には日本で就職をしている方や、札幌市の国際交流員を経験した方もいます。

■問合せ先

<担当部署>

北海道教育大学教育研究支援部国際課

住所：〒002-8501

北海道札幌市北区あいの里5条3丁目1番3号

TEL：+81-011-778-0928（直通）

FAX：+81-011-778-0675

Email：g-kokusai@j.hokkyodai.ac.jp

<ウェブサイト>

北海道教育大学：

<https://www.hokkyodai.ac.jp/international/> 005-



弘前大学 (青森県)

歴史文化豊かな弘前で日本を学び、世界に発信し、地域と共に創造する。

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

1949年に設立されてから、青森県内および近県の教員、医療関係者、エンジニア、公務員、企業人、経営者等の人材育成を担ってきた、歴史のある国立大学です。5学部、7研究科で多彩な分野の研究を行っています。

設 立：1949年
学生数：合 計：7,153人
学部生：5,962人
大学院：1,003人
留学生数：188人

○学 部

人文社会科学部、教育学部、理工学部、
農学生命科学部、医学部

○大学院

(修士課程)	(博士課程)
人文社会科学部研究科	医学研究科
保健学研究科	保健学研究科
理工学研究科	理工学研究科
農学生命科学研究科	地域社会研究科
地域共創科学研究科	

② 国際交流の実績

海外協定校59校 (24国)
海外拠点2箇所 (中国1, タイ1)

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生 (日研生) の受入れ実績

2023年：留学生数188人、日研生3人
2022年：留学生数158人、日研生2人
2021年：留学生数152人、日研生3人

④ 地域の特徴

弘前大学がある弘前市は、人口約16万の町に4つの大学がある学園都市です。もともと津軽藩の城下町として栄えた由緒ある町ですが市の周囲は農村部で、比較的物価が安く、留学生には住みやすい町であると言えるでしょう。市はコンパクトにまとまり、大学の周囲には学生向けのアパート、食堂や居酒屋などで学生街が形成されています。市の繁華街に歩いて15分～30分程度で行くことができます。学生の主な交通手段は自転車です。



三内丸山遺跡で縄文のアートを学ぶ

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

- a) 主に日本事情・日本文化に関する研修
- b) 主に日本語に関する研修 (希望する日系人)

② 研修・コースの特色

○様々な分野の勉強が可能な環境

留学生用の日本語・日本事情関連科目から、学部の専門科目まで、幅広い分野の授業を受けることが出来ます。

また、学部の教員が指導教員としてつきますから、日本語能力に応じて日本人と同じ指導を受けることができます。

弘前は地方の小都市ですが、伝統ある城下町で、伝統的な生の日本文化に容易に触れることができます。

○学部にも所属して研究室の一員に

日研生は、人文社会科学部か、教育学部かいずれかの学部にも所属し、特に日本語能力が高い学生は日本人学生と一緒にゼミナールに参加、ゼミの行事に参加しています。

(近年、日研生を受け入れた教員の専門分野は、日本文学、比較文学、日本史、思想史、国語学、言語学、言語教育学、社会学、日本美術学、民俗学、考古学、国際政治などです。)

○充実した実地見学・体験学習

留学生向けの「日本語・日本事情関連科目」は実地体験、体験学習を多く取り入れています。 -006-

③ 受入定員

4名（大使館推薦 2名、大学推薦 2名）

④ 受講希望者の資格、条件等

専門によって以下の条件を加えます。

・日本で調査・研究活動をする予定の学生は、調査・研究活動に必要な言語能力があること。

・日本で文献収集を行う予定の学生は、日本語で文献を読む能力があること。

（注意）

日本に関する特定の専門分野（日本文学「古代、中世、近代、現代」、日本語学「古代、中世、近代現代」、日本史「古代、中世、近代」、日本考古学、日本美術史、日本経営、民俗学など）を学ぶ希望のある学生は、分野名を願書に明記することが必要です。

また、文学と歴史については、時代を示すことが可能であれば望ましいです。学びたい分野として「日本語」「日本文化」「日本事情」としか書かれていないと、これらは日本の大学では専攻名としては扱われていませんので、専門が違う教員が指導教員になる場合もあります。

⑤ 達成目標

○日本語：より高い総合日本語力（N2～N1超）の獲得。

○研究対象分野：対象分野についてのプロジェクトを行ったり発表したりできるようになります。

⑥ 研修期間（在籍期間）

・2024年10月1日 ～ 2025年8月31日

1：秋学期 10月1日 ～ 2月上旬

2：春学期 4月上旬 ～ 8月上旬 各16週

⑦ 奨学金支給期間

2024年10月 ～ 2025年8月

⑧ 研修・年間スケジュール・

2024年

9月下旬：渡日

秋学期オリエンテーション

10月： 総合文化祭

11月： 青森県留学生交流ジャンボリー
体験型観光

12月： クリスマスパティー

2025年

2月： 春季外国人留学生卒業・修了懇談会

4月： 春学期オリエンテーション
弘前さくらまつり

6月： 体験型観光

8月： ねぶた祭交歓会
秋季外国人留学生卒業・修了懇談会

8月中旬： 桔梗野町会国際交流夏祭り

8月下旬： 帰国



こけし作りの体験学習

⑨ コースの修了要件

○本プログラム修了者には、必修科目と選択科目を合わせて、1年で20単位の修得と修了レポートの提出を条件として、研修修了証書を授与します。

○授業科目を履修した者については、試験の上、合格した者に単位を与えます。

○早期修了は認めておらず、成績証明書の発行は可能です。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

一般学生・短期プログラム用の授業を受講しながら個々の専門に応じた資料収集、調査等の指導を受けます。

2) 研修・コース開設科目

I) 必須科目

日本語科目（2023年度後期）

※開講科目は変更になる場合があります。

（科目名）	（回数）
基礎	週4回
初級（総合）	週3回
初級（漢字・読解・作文）	週1回
中級前半（総合）	週2回
中級後半（総合）	週1回
中級（スピーチ・ディスカッション）	週1回
中上級（読解）	週1回
中上級（作文）	週1回
中上級アカデミックジャパニーズ（聴解）	週1回
中上級・上級（文法）	週1回
中上級・上級日本事情プレゼンテーション	週1回
上級（読解）	週1回
上級（アカデミックライティング）	週1回

日本語プレースメントテストの結果によって、自分のレベルに応じた日本語科目を受講することになります。

Ⅱ) 選択科目

(科目名)

日本文学とアイデンティティの形成 *
トランスナショナリズムの音楽 *
日本の表象文化 (『鬼滅の刃』) *
現代日本文化論 (『千と千尋の神隠し』) *
日本の女性による文学 *
日本の絵本の世界 *
日本の戦争文学 *
自主研究(日本語または英語による日本研究の
個人指導)
日本美術史

※以下のⅢ及びⅣについても選択科目である。

Ⅲ) 研修科目で地域の見学や地域交流等への参
加ができる科目

(科目名)

日本の文化史入門—津軽の近代文化史 *
日本の伝統工芸—津軽の工芸 *
インターンシップ—リンゴ栽培、商品開発、
マーケティング
インターンシップ—観光PR
インターンシップ—シティ・プロモーション
インターンシップ—Webマーケティング
インターンシップ—地域ツーリズム
地域の食と産業化 *
地域の多様性と活性化—地域観光と地域プロ
モーション—

Ⅳ) 日本人学生との共修がある科目

(科目名)

異文化間コミュニケーション
茶室の美学(前期)
国際学生フォーラム(後期)
(Ⅱ及びⅢで「*」がついている科目も該当する。)

Ⅴ) その他所属学部において開講される授業・教
養科目等

⑪ 指導体制

・日本語担当教員

小山 宣子 国際連携本部 准教授
(日本語教育学)

長尾 和子 国際連携本部 准教授
(日本語教育学)

高橋 千代枝 国際連携本部 助教
(日本語教育学)

・日本文化・日本事情担当教員

諏訪 淳一郎 国際連携本部 准教授
(文化人類学・日本文化論・サブカルチャー論)

サワダ ハンナ 国際連携本部 准教授
(比較文学・文化)

学業面では、主に学部の指導教員と国際連携本部
の教員が、生活面では、指導教員および国際連携
本部の職員が指導、助言を行います。



弘前ねぶたまつりに参加

■宿 舎

国費外国人留学生(日研究生を含む)を対象とした
宿舎は現在ありません。希望により、市内のアパ
ート(3万円~4万円程度)を紹介できます。

■修了生へのフォローアップ

○フォローアップ実績の一例

- ・修了レポートを卒業論文につなげるために、
弘前大学教員がサポート
- ・再度日本に留学し、大学院に出願している学生
へ、弘前大学教員がサポート
- ・母国での研修分野での大学院進学をサポート

○修了後のキャリアパスの一例

- ・母国で日本語教員として就職
- ・母国や日本の企業で専門性を生かした仕事に
従事

■問合せ先

<担当部署>

弘前大学国際連携本部

住所: 〒036-8560

青森県弘前市文京町1

TEL: +81-172-39-3109 (直通)

FAX: +81-172-39-3133

Email: jm3109@hirosaki-u.ac.jp

<ウェブサイト>

弘前大学国際連携本部:

<http://www.kokusai.hirosaki-u.ac.jp/>

弘前大学:

<https://www.hirosaki-u.ac.jp/>



岩手大学
IWATE UNIVERSITY

岩手大学 (岩手県)



知識、体験、分析を融合させた知的発見による学びの場を提供

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

岩手大学は、地域社会に開かれた大学として、その教育研究の成果をもとに地域社会の文化の向上と国際社会の発展に貢献することを目指すことを理念とする総合大学である。人文社会科学部、教育学部、理工学部、農学部の4つの学部、地域創生専攻、総合文化学専攻、理工学専攻、農学専攻からなる総合科学研究科と教育学研究科の2つの大学院修士課程、博士課程としては、理工学研究科、獣医学研究科、連合農学研究科の3つの研究科がある。

教育研究基盤施設として、国際教育センター、情報基盤センター、保健管理センター、図書館が設置されている。研究施設としては、地域防災センター、平泉文化研究センター、ものづくり技術研究センターなどがある。

学生数は約5,400名、教職員約710名（うち教員約350名）の大学である。4つの学部がすべて同じキャンパスに設置され、10分以内でキャンパスのどこへでも移動でき、学部を超えた交流が盛んである。

本学には約50万点の資料や標本等がある。これらの財産を一般市民にも活用してもらう目的で、大学全体を総合博物館として“岩手大学ミュージアム”の名称で一般公開している。

② 国際交流の実績

2023年10月1日現在で、中国・ロシア・モンゴル・タイ・アメリカ等19カ国1地域、61の大学・研究機関等と国際交流協定を締結している。

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

	2021	2022	2023
留学生総数	191	173	185
日本語・日本文化研修留学生 (各年度10月の受入れ人数)	1	0	1

④ 地域の特色

本学の位置する盛岡市は、北東北の交通の中心地であり、豊かな自然に囲まれた人口30万の教育・文化都市である。春夏秋冬の移り変わりが美しく、それぞれの季節を楽しむことができる。また、小規模都市ながら、生活しやすい環境である。

岩手は、宮沢賢治・石川啄木・野村胡堂・萬鉄五郎・田中館愛橘・金田一京助など、学術・文化に貢献した多くの人材や、後藤新平、新渡戸稲造ら国際的に活躍した人物を生み出した土地である。総理大臣も4人輩出している。県南部に位置する平泉はかつて奥州藤原氏が栄華を誇った土地で、2011年6月にユネスコの世界遺産に登録された。世界遺産としては、橋野鉄鉱山、御所野遺跡も有する。また、県中央部の遠野は、多くの民話や伝承が残り、民俗学者 柳田國男の『遠野物語』で有名である。このほかにも、さまざまな芸能、食、工芸等の伝統文化が受け継がれる豊かな地域である。

2011年3月の東日本大震災では沿岸地域を中心に大きな被害を受けたが、地域の復興・再生が進められ、その知見は他地域からも注目されている。



■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

a) 主に日本事情・日本文化に関する研修

② 研修・コースの特色

本コースのねらいは、日本語能力を高めながら及び日本の文化・歴史・地理・政治・経済・社会・教育等について理解を深めさせることにある。教室内の学習にとどまらず、日本文化体験、地域住民との文化交流活動、ボランティアなど様々な体験学習が豊富に用意され、体験を通して「日本語」「日本文化」どちらも学べるのが本学のプログラムの特色である。なお、歴史、文化については英語による授業も開講されているほか、日本人学生や他のプログラムの留学生との共修プログラムが豊富で、日本人学生、留学生とともに、日本や岩手に対する理解を深めることができる。

また、滞在中を通じてひとつのテーマについて研究する「個別研究」を通じて、実践的な研究力を高める。卒業論文の基礎研究とすることも可能である。

③ 受入定員

5名（大使館推薦4名、大学推薦1名）

④ 受講希望者の資格、条件等

このコースの受講要件は、以下のとおりである。

- 1) 中上級以上の日本語受容力（日本語能力試験 N2合格相当以上）ならびに、大学生活に必要な会話能力、文章作成能力を有する。
- 2) 日本語・日本文化に関する分野を専攻している。

⑤ 達成目標

本コースの達成目標は以下の通りである。

- 1) 日本語によるアカデミックな文章作成力、口頭発表力を習得する。
- 2) 日本や岩手について体験に基づく幅広い知識を獲得し、理解、解釈する能力を得る。

⑥ 研修期間（在籍期間）

2024年10月 ～ 2025年8月

（在籍期間：2024年10月1日～2025年8月31日）

修了式は8月初旬予定

⑦ 奨学金支給期間

2024年10月 ～ 2025年8月

⑧ 研修・年間スケジュール・

9月下旬 来日、開講式・オリエンテーション

10月 不來方祭（文化祭）

11月 多文化コミュニケーション合宿研修
フィールドスタディ（企業・工場見学）

1月 フィールドスタディ（スキー）

6月 留学生と市民のガーデンパーティー
多文化コミュニケーション合宿

7月 個別研究発表

8月 盛岡さんさ踊り参加
プログラム修了式

8月下旬 帰国

⑨ コースの修了要件

修了判定＝必修科目及び選択必修科目の条件を満たした者について、履修科目の成績により判定し、コース修了証を発行する。また、成績等の条件を満たした場合、各履修科目について単位修得証明書を発行する。なお、原籍大学の都合等により、7月末での修了も認めることがある。（応相談）

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

本コースは以下の領域の授業・活動からなる。

日本語・日本事情等に関する授業

個別研究

各自の研究テーマに関する専門の授業

指導教員の助言のもとに、留学生向け科目のみならず、本学の教養教育科目、専門科目の中から各自の能力、関心に応じて選択し、履修することができる。自由度の高いカリキュラムを活用することにより、独自の日本語・日本文化の研究を深めることが可能となる。

「個別研究」では日本語・日本文化に関するテーマを選択し、文献分析、調査などにより研究を進め、その成果発表を行う。

2) 研修・コース開設科目

★必修科目（集中・30時間）

個別研究：日本語・日本文化のテーマに関する研究。ポスター、論文等による発表。

★選択必修科目

I. 日本語（各学期3コマ3単位・90時間以上）

* 日本語レベルにより選択し、履修する

【中級後半レベル】

中級日本語Ⅱ文法：N2レベルの日本語文法学習

中級日本語Ⅱ会話：状況によるスピーチレベルの使い分け能力学習

中級日本語Ⅱ作文：簡易なレポート、要旨作成練習

中級日本語Ⅱ漢字：N2レベルの漢字学習

中級日本語Ⅱ読解：簡易な学術的文章読解練習

中級日本語Ⅱ読解：簡易な学術的文章読解練習

中級日本語Ⅱ読解：簡易な学術的文章読解練習

中級日本語Ⅱ読解：簡易な学術的文章読解練習

中級日本語Ⅱ読解：簡易な学術的文章読解練習

中級日本語Ⅱ読解：簡易な学術的文章読解練習

中級日本語Ⅱ読解：簡易な学術的文章読解練習

中級日本語Ⅱ読解：簡易な学術的文章読解練習

中級日本語Ⅱ読解：簡易な学術的文章読解練習

中級日本語Ⅱ読解：簡易な学術的文章読解練習

中級日本語Ⅱ読解：簡易な学術的文章読解練習

中級日本語Ⅱ読解：簡易な学術的文章読解練習

中級日本語Ⅱ読解：簡易な学術的文章読解練習

中級日本語Ⅱ読解：簡易な学術的文章読解練習

中級日本語Ⅱ読解：簡易な学術的文章読解練習



ガーデンパーティー

【上級レベル】

上級日本語A：討論、ディベート練習

上級日本語B：論文作成練習

上級日本語C（文系）：歴史を中心とした文系文献理解

上級日本語C（理系）：理系文献理解

上級日本語D：論文・要旨等の読解練習

上級日本語E：学術的口頭発表練習

上級日本語F：論文作成

上級日本語G文系：文系文献理解

上級日本語G理系：理系文献理解

上級日本語H：論文読解練習

* 学部専門科目の日本語学関連科目を履修した場合も、「日本語科目」として認める。

Ⅱ. 日本文化・社会（各学期2コマ4単位・60時間以上）

※変更となる可能性があります。

Iwate Studies A：古代から中世の岩手の歴史について遺跡、博物館等の見学と検討（見学・地域交流も含む）

Iwate Studies B：近世以降の岩手に関する見学と検討（見学・地域交流も含む）

日本事情A：日本各地の歴史を軸とした地域事情学習

日本事情B：日本の政治の歴史的変遷学習

3) 見学・地域交流等の参加

フィールドスタディ（企業見学/工場見学/スキー）



盛岡さんさ踊り

4) 日本人との共修等の機会

* 選択必修科目(日本文化・社会)に含む

※変更となる可能性があります。

Japanese History A : 古代・中世史学習

Japanese History B : 近世以降の歴史学習

Comparative Japanese History A

: 日本史と世界史の対照1

Comparative Japanese History B

: 日本史と世界史の対照2

Japanese Traditional Culture A

: 生け花学習1 (実技含む)

Japanese Traditional Culture B

: 生け花学習2 (実技含む)

多文化コミュニケーションA : 日本人学生と留学生との共修により日本社会のコミュニケーショントピックを比較文化的に体験、討論する。中学生との合宿研修を含む。

多文化コミュニケーションB : 日本人学生と留学生との共修により日本社会のコミュニケーショントピックを比較文化的に体験、討論する。合宿研修を含む。

School Internship I : 岩手県内の初中等教育機関での英語教育実習と学校事情学習1 (見学・地域交流も含む)

School Internship II : 岩手県内の初中等教育機関での英語教育実習と学校事情学習2 (見学・地域交流も含む)

5) その他の講義、課外活動

人文社会科学部、教育学部、理工学部、農学部で開講されている専門教育科目の中から、各自の能力、関心に応じて講義を選択することができる。これらの科目履修も強く推奨する。

また、課外活動として、地域の学校訪問による自国紹介事業や子どもとの交流事業、地域の祭事への参加、見学、体験活動が豊富に準備されている。さらに、学内で、日本人と留学生との交流サロンである日本語カフェをはじめとする、グローバルビレッジでの各種イベント、公開講座等も日々開催されており、これらの活動への積極的な参加が推奨される。

⑪ 指導体制

留学生の専門分野や興味・関心にマッチする専攻の教員が、指導教員としてあたる。また、日本語指導や生活・就学上の相談などについては、国際教育センターの教員が担当する。

<国際教育センター専任教員>

氏名 Name	
松岡 洋子 Ms. Yoko Matsuoka	日本語教育 Japanese language education
山内 亜美 Ms. Ami Yamauchi	英語力向上のための企画・運営、留学指導、海外研修の企画・運営 Education Management for English Skills Improvement, Study Abroad Consultation, Planning and coordination of Study Abroad Programs
アンデス カールキビスト Mr. Nils Anders Carlqvist	日本事情・岩手学(歴史、文化、宗教)、短期留学(インドネシア、スウェーデン)、いけばな・古代出雲(風土記、神話) Japan Studies, Iwate Studies (History, Culture, Religion), Short-term Content-based International Program (Indonesia, Sweden), Japanese flower arrangements, Ancient Izumo (Fudoki, Mythology)
ジェイコブ ピーターセン Mr. Jacob Petersen	ICTプラットフォーム管理、ツールとしての英語教育実施計画開発、ICTツールを活用した教育トレーニング ICT Platform management/design, Development of English learning schemes, ICT training



■宿 舎

キャンパス内に位置する国際交流会館に入居することができます。部屋には、シェアハウスタイプ(4人1ユニット)と単身室があります。

月額宿舎料(光熱水費を含む):

【シェアハウスタイプ】33,000円

【単身室】36,000円

施設使用料: 30,000円(1回のみ)

インターネット年間使用料: 24,200円

寝具年間レンタル料: 11,000円



シェアハウスタイプ

■修了生へのフォローアップ

帰国後の進路等について、継続的に連絡をとり、情報交流や必要な支援を行うとともに、留学生同窓会への参加を呼びかけ、同窓生との交流も図る。また、日本での就職希望者について、キャリア支援課と協力し、ガイダンス等の支援を行う。

■問合せ先

岩手大学学務部国際課

住所: 〒020-8550

岩手県盛岡市上田三丁目18-34

TEL: +81-19-621-6927 (直通)

FAX: +81-19-621-6290

Email: gryugaku@iwate-u.ac.jp

岩手大学国際教育センターホームページ

<https://www.iwate-u.ac.jp/iuic/>

岩手大学ホームページ

<http://www.iwate-u.ac.jp/>



東北大学 (宮城県)

多種多様な国際共修授業と文学専門科目が魅力

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

1) 東北大学は日本で3番目の国立大学として1907年に創設されました。現在、10の学部、15の大学院研究科、3つの専門職大学院、6つの研究所があります。国立大学で最初に女子学生の入学を許可した「門戸開放の精神」と「研究第一主義」にもとづき、国際的な大学として、教育・研究で重要な役割を果たしています。

2) 学部名、教員数、学生数は次のとおり。

(2023年5月)

学部：文学部、教育学部、法学部、経済学部、理学部、医学部、歯学部、薬学部、工学部、農学部

教員：3,145名

学生：学部学生10,644名

大学院生 7,041名 計17,685名

② 国際交流の実績

留学生：2,145名 (90カ国・地域) (2023年5月)

外国人研究者：1,228名 (2022年度受入実績)

大学間交流協定：245機関 (36カ国・地域)

(2023年5月)



③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生 (日研生) の受入れ実績

2023年：留学生数2,145人、日研生2人

2022年：留学生数2,074人、日研生4人

2021年：留学生数2,044人、日研生4人

④ 地域の特徴

東北大学のある仙台市 (人口約100万) は城下町として栄えた都市で、現在は東北地方の経済・文化の中心地です。東京からは新幹線で1時間半の距離です。昔から「杜の都」と言われ、緑が豊かで美しく住みやすい都市として知られています。青葉まつりや七夕まつり、SENDAI光のページェント (イルミネーション) など、様々な季節のイベントが開催されます。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

a) 主に日本事情・日本文化に関する研修

② 研修・コースの特色

本プログラムは、多様な日本語・日本文化関係の授業の中から、当人のレベル・目的に合う授業を選択して受講する方式です。自主的な学習・研究活動を好む学生に適しています。多くの日本語の授業に加えて、日本思想史、日本文学関連の授業を常時開講しています。発表の仕方やレポートの書き方など、アカデミック・スキルの指導にも力を入れています。

③ 受入定員

10名 (大使館推薦9名、大学推薦1名)

④ 受講希望者の資格、条件等

本プログラムへの応募者は、原則として次の条件を満たすことが求められます。

1) 中級以上の日本語能力 (国際交流基金が実施している日本語能力試験のN2以上の能力) を有すること。

2) 原籍大学において、日本語・日本文化に関する分野を主専攻としていること。

⑤ 達成目標

日本語能力の向上、および日本・日本文化に対する理解を深める。

⑥ 研修期間 (在籍期間)

研修期間：2024年10月上旬 ~ 2025年9月下旬

(在籍期間：2024年10月1日 ~ 2025年9月30日)

⑦ 奨学金支給期間

2024年10月 ~ 2025年9月

⑧ 研修・年間スケジュール・

9月下旬：渡日

10月：オリエンテーション、開講式

10月-8月：日本文化研修 (文化体験：茶道、和太鼓、華道、七夕飾りなど)

国際交流行事 (日本人学生との交流会、国際祭りなど)

8月：修了発表会

9月：修了式

9月下旬：帰国



⑨ コースの修了要件

所定の課程（年間14コマ/週 以上）の修得を終え、修了レポートを提出し、指導教員がその成果を認めた留学生については、修了式にて修了証書を授与します。一つの授業（1コマ）は90分です。

表1. 修了に必要な履修コマ数

	種別	コマ数/週		
		秋冬学期	春夏学期	計
必修	日本語・日本文化演習	1	1	14以上
選択	日本語科目	2以上		
	国際共修科目	2以上		
	専門科目	2以上		
修了レポート（口頭発表含む）				

注：1学期に最低7コマは履修する

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

- 研究に必要な日本語の高度な運用力、正確な読解力と文章構成力の養成を行い、日本語学や日本の社会や文化の研究手法や知識を身につけることができます。
- 留学生と日本人学生がともに学ぶ、問題解決型・プロジェクト型の授業が数多く提供されています。協働学習を通してより深く日本を学ぶことができ、授業外でも日本人学生と積極的な交流を図ることができます。
- 専門家に指導を受けつつ、興味のある分野について知識を身につけることができます。同時に、日本思想史、日本文学など様々な関連科目を学ぶことができます。

2) 研修・コース開設科目

I) 必須科目・内容

- 「日本語・日本文化演習」

受講生が主体的に日本文化について調査を行い、修了レポートや研究発表の技能を習得します。

II) 選択科目・内容

i) 日本語科目

習熟度によって幅広く選択履修できるよう、各学期に中級～上級レベルの科目を提供しています。

表2. 選択科目（日本語科目）

授業科目		コマ数/週	時間数/学期
日本語中級 [受講生のレベル：B1]	総合	4	90
	聴解	1	22.5
	会話	1	22.5
	読解	1	22.5
	作文	1	22.5
	漢字・語彙	2	45
日本語中上級 [受講生のレベル：B2]	総合	2	45
	聴解	1	22.5
	会話	1	22.5
	読解	1	22.5
	作文	1	22.5
	漢字・語彙	1	22.5
日本語上級 [受講生のレベル：C1]	聴解	1	22.5
	会話	1	22.5
	読解	1	22.5
	作文	1	22.5
	ビジネス日本語	1	22.5
日本文化演習	古文入門	1	22.5
	漢文入門*	1	12
	くずし字入門*	1	12
	前近代日本の歴史と思想	1	22.5

注：*はクォーター科目



ii) 国際共修科目

国際理解教育、国際化教育のため、留学生と日本人学生が一緒に受講するクラスです。小人数の授業で、コミュニケーション力やグループで活動するスキル等の向上が図れます。（ほとんどの科目が週1コマ、学期22.5時間）

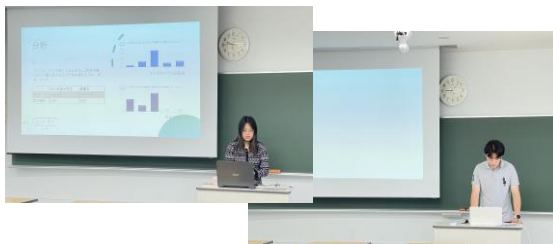
表3. 選択科目（国際共修科目）

秋冬学期	・日本人学生と学ぶ初心者合気道
	・日本人学生とつくるフットサルチーム
	・日本語と英語で読む日本文学
	・敬語・日本語－メタバースで世界の言語と比較する－
	・操作する言語とメディア・リテラシー
	・日本言語文化のふしぎ発見
	・出身国・地域を日本から見る
	・多言語で読む源氏物語
	・歌に学ぶ日本の言葉と心
	・演劇的ワークショップ－展開編－
	・仙台の商店街を活性化して仙台全体を盛り上げよう
	・ウィンターコースを企画する
	・仏教と近代日本
	・グローバル・コミュニケーション
	・異文化コミュニケーション学応用（パーソナルリーダーシップ）
	・近代日本の歴史と思想
	・近代におけるオカルティズムの歴史
	・外から見た日本の社会

- ・日本人学生と学ぶ初心者合気道
- ・「お笑い」を通して日本文化を学ぶ
- ・世界と日本の課題をテーマとしたプロジェクト型学習で日本語コミュニケーション力を磨く
- ・おもしろい話とことば
- ・日本言語文化のふしぎ発見
- ・マルチメディア（マンガ・アニメ）で自文化紹介・異文化理解
- ・出身国・地域を日本から見る
- ・留学生と日本人学生の協働プロジェクト
- ・自己理解を深める
- ・留学生との日本文化やプロジェクトを通じた交流
- ・日本文化とコミュニケーション
- ・日本語の文法を外から見て考える
- ・映画に見る日本語と日本文化
- ・文学で学ぶ日本
- ・多文化理解実践
- ・演劇的ワークショップ-基礎編-
- ・グローバル・コミュニケーション
- ・異文化コミュニケーション学応用

iii) 専門科目

その他の全学教育科目と、主に文学部で開講されている一般学生向けの専門科目を履修します。



修了発表会の様子

3) 研修科目で地域の見学や地域交流等の参加出来る科目及びその具体的な内容

多くの国際共修科目で文化体験を取り入れた授業を行なっています。例えば、「留学生と日本人学生の協働プロジェクト」は仙台市内の博物館や美術館を訪問します。「仙台の商店街を活性化して仙台全体を盛り上げよう」は仙台の商店街に実際に行き、フィールドワークをします。

4) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

表3の科目はすべて日本人学生との共修です。

⑪ 指導体制

1. 日研究生担当教員

菅谷奈津恵 高度教養教育・学生支援機構 教授
(専門：日本語教育)

2. 指導体制・学生の所属等

学生は文学部か上記機構に所属します。学生の指導は、上記教員を含む日本語教員と文学部教員が担当します。

※ 必要に応じて、日本人チューターが学習を手助けします。

■宿 舎

施設及び所在地

- ・国際交流会館三条第一会館 (仙台市青葉区)
- ・国際交流会館三条第二会館 (仙台市青葉区)
- ・国際交流会館東仙台会館 (仙台市宮城野区)
- ・ユニバーシティ・ハウス三条 (仙台市青葉区)
- ・ユニバーシティ・ハウス三条Ⅱ (仙台市青葉区)
- ・ユニバーシティ・ハウス三条Ⅲ (仙台市青葉区)
- ・ユニバーシティ・ハウス片平 (仙台市青葉区)
- ・ユニバーシティ・ハウス長町 (仙台市太白区)
- ・ユニバーシティ・ハウス青葉山 (仙台市青葉区)

【ウェブサイト】

<https://sup.bureau.tohoku.ac.jp/arrival/pre/first-a-place/#1>

■修了生へのフォローアップ

プログラム終了後の参加者に本学教員が行うサポートは、基本的にはメール等の通信手段を用いたものとなりますが、担当教員が派遣元大学を直接訪問する形で参加者への事後の指導を行う機会を用意します。また、派遣元大学と本学との学術交流を促進すべく協議します。



■問合せ先

<担当部署>

東北大学 高度教養教育・学生支援機構
言語・文化教育センター
担当事務：教育・学生支援部
留学生課国際教育係

住所：〒980-8576

宮城県仙台市青葉区川内41

TEL：+81-22-795-7817 (直通)

FAX：+81-22-795-7826

Email：sed2@grp.tohoku.ac.jp

<ウェブサイト>

東北大学 高度教養教育・学生支援機構：

<https://www.ihe.tohoku.ac.jp>

東北大学：

<http://www.tohoku.ac.jp/>

秋田大学 (秋田県)

秋田の豊かな自然と風土の中で日本語と日本文化を体験的に学ぶ

■大学紹介

① 大学の特徴及び概要

秋田大学は、国際資源学部、教育文化学部、医学部、理工学部の4学部（研究科を除く）からなる総合大学で、約5,000人の学生が学んでいます。

日本語・日本文化研修留学生を受け入れる教育文化学部の歴史は古く、今日まで120有余年にわたり教員養成と地方文化の拠点として幾多の人材を教育、学芸、文化の各方面に送り出してきました。



② 国際交流の実績

2023年10月1日現在、大学間協定を73大学（35か国・地域）と結び、留学生の受入れや日本人学生の派遣などを活発に行っています。

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

2023年：留学生数277人、日研生2人
2022年：留学生数259人、日研生3人
2021年：留学生数221人、日研生1人
(10月1日現在)

④ 地域の特徴

秋田県は、世界自然遺産である「白神山地」、日本一の深さを誇る湖「田沢湖」などがあり、自然の美しさに溢れた地域です。自然豊かな山に囲まれ、各シーズンを通して、登山や温泉などを楽しむことができます。

秋田市は秋田県の県庁所在地で、東北に位置し、人口は約30万人、東北の主要都市の一つです。

「かんとう」「なまはげ」「かまくら」などの伝統的な行事が数多く受け継がれているほか、小京都と呼ばれる「角館」など、史跡も数多く、そこでは人々のあたたかさに触れることができます。



秋田犬



田沢湖



夏：かんとう祭り



冬：かまくら祭り

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

a) 主に日本事情・日本文化に関する研修

② 研修・コースの特色

秋田大学日本語・日本文化研修プログラムは、日本の大学での勉学に必要な日本語能力を習得し、秋田地域独自の視点から日本文化を理解・研究するためのプログラムです。

●「日本語」授業

講義を理解してノートを取り、試験やレポートを書ける、ゼミなどで専門的な討論に参加し自分の意見を発表できる、交友を広げるための異文化コミュニケーション能力の技能習得等をめざします。

●「日本文化」授業

最大の特長は、全て日本人学生と共に受講することができる点です。秋田の文化を深く知ることをめざした「日本文化入門」などの学生参加型授業だけでなく、日本の近代文学や日本語教育学についての専門知識も学ぶことができます。

●「課題研究」

「日本語」および「日本文化」授業で学んだ成果と、秋田・日本での生活経験から得た問題意識を研究レポートとしてまとめる「課題研究」を必修としています。「課題研究」では少人数でじっくり考えながら研究テーマを決め、それぞれの受講生にあった研究方法を教員が助言します。

③ 受入定員

4名（大使館推薦2名、大学推薦2名）

- ④ 受講希望者の資格、条件等
- ・ JLPT : N2保持が望ましい
 - ・ やや高度な文法・漢字 (1,000字程度) ・ 語彙 (6,000字程度) を習得し、日常生活についての会話ができ、読み書きできる者が望ましい。
 - ・ 外国の大学で日本語・日本文化に関する教育を行う学部・学科に在籍し、日本語を600時間程度学習し、中級日本語コースを修了した者が望ましい。

- ⑤ 達成目標
- ・ 日本語学習
 - 日本語で学術的内容のレポートを作成し、その内容について口頭で発表でき、また質疑にも日本語で答えられる能力の習得を目指します。
 - これは、日本語能力試験1級 (N1) 合格相当にあたりますが、自分の問題意識を他者に伝えるための日本語能力習得を重視します。

- ・ 日本文化学習
- 一般的な日本文化理解にとどまることなく、日本人と合同の授業やさまざまな課外活動の経験、また秋田県での日常生活を通じ自らの課題を見つけ、それに基づいて、日本文化とは何か、秋田の文化とは何かを考察できるようになる地点をめざします。

- ⑥ 研修期間 (在籍期間)
- 研修期間：2024年9月下旬～ 2025年8月下旬
(在籍期間：2024年10月1日～ 2025年8月31日)

- ⑦ 奨学金支給期間
- 2024年10月 ～ 2025年8月

- ⑧ 研修・年間スケジュール (予定)

9月下旬：渡日
オリエンテーション

10月： 授業開始
秋田の農家民泊体験

1月： 留学生寮周辺町内会との交流事業

2月： スキー体験

6月： 留学生寮周辺町内会との交流事業

8月： 修了セレモニー

8月下旬：帰国

- ⑨ コースの修了要件

- 修了要件：
コース期間中、日本語・日本文化科目を各セメスター8コマ以上受講し、かつ単位を修得し、課題研究の論文を提出すること
- 修了証書の発行：2025年11月頃郵送予定

- ⑩ 研修・コース科目の概要・特色

- 1) 研修・コース科目の特徴
- 日本語と日本文化に関するクラスを中心に受講し、論文作成指導を受け、最終的には各自のテーマに基づき日本語で論文作成を行います。

- 2) 研修・コース開設科目
- I) 必須科目 (○90分×15回) ・ 内容

課題研究 I / II	日本語・日本文化科目での学習、および秋田での生活を通して発見したことに基づき論文を作成する。
-------------	--

- II) 選択必修科目 (○90分×15～30回) ・ 内容

日本語 4 - I / II	大学生活に必要な会話能力および漢字を身につける。
日本語 4 - III/IV	大学生活に必要な読解能力を身につける。
日本語 4 - V/VI	中級レベルの文法・語彙・表現の運用能力を総合的に高める。
日本語 5 - I / II	論文やレポートなどの高度な書き方を習得する。
日本語 5 - III/IV	日本語によるプレゼンテーション能力を身に付ける。
日本語 5 - V/VI	大学の勉学や就職に必要な発表の技法を身に付け、口頭表現力を向上させる。
日本語 5 - VII/VIII	上級レベルの文法・語彙・表現の運用能力を総合的に高める。
日本語 5 - IX	日本語でさまざまなスタイルの文章を書く。
日本語 5 - X	論文の読解の仕方を学ぶ。

- 3) 地域の見学や地域交流等の参加
- 農家民泊や地域交流イベントなど留学生を対象とした様々な交流行事を予定しています。
- 4) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容
※選択必修科目又は選択科目 (○90分×15回)

日本文化入門 I / II	日本や秋田の文化について学ぶ。
多文化コミュニケーション入門 I / II	様々な文化背景を持つ人とのディスカッションを通して、円滑なコミュニケーションの方法を考える。
ワークショップ入門 I / II	社会問題への解決の緒を探る。
文化人類学概論	フィールドワークの歴史を中心に、入門的な文化人類学について学ぶ。
日本文学概論	近代日本文学史を学び、主な近代文学の作品を読む。
日本語教育学入門 I / II	日本語教育学の歴史的背景、日本語教育観、評価観の現状に関して考察する。
日本語文化論	日本語文法に潜む盲点について、助詞の問題を中心に、具体例に沿いながら、分析・検討する。
日本の近代文学	長編小説を10回に分けて精読する。
日本社会入門 I / II	日本社会と日本研究における重要な概念を学ぶ。また、その知識を使って日本社会におけるさまざまな問題を振り返る。
スポーツ実習	サッカー、柔道

⑪ 指導体制

高等教育グローバルセンター専任教員

浜田 典子 助教

E-mail: mhamada@gipc.akita-u.ac.jp

高等教育グローバルセンター専任教員

袁 曉姦 助教

E-mail: xbyuan@gipc.akita-u.ac.jp

高等教育グローバルセンター専任教員

権 裕羅 助教

E-mail: kwonyura@gipc.akita-u.ac.jp

■宿 舎

●留学生用宿舎等（単身用）

①留学生会館（27室）

②国際交流会館 A棟（10室）

③国際交流会館 B棟（18室）

※室数が限られているため、希望者全員が希望の宿舎に入居できるとは限りません。宿舎に入居できない場合は、民間アパート等をご紹介します。

●過去3年間の日研生の宿舎入居状況

・2023年度 国際交流会館2人

・2022年度 民間アパート2人

男子寮1人

・2021年度 留学生会館1人

●宿舎費（単身用・月）

①②5,900円 ③15,000円

（ガス・水道・電気などの光熱費は含まない）

●各個室の設備等

ユニットバス・トイレ、冷蔵庫、キッチン、ベッドなど。各部屋にエアコンも完備。

※ふとん、食器などは各自用意願います。

●通学時間：①徒歩15分 ②③徒歩5分

●参照ホームページ

<https://www.akita-u.ac.jp/honbu/global/ja/abroad/inbound/info.html>



留学生会館



国際交流会館

■修了生へのフォローアップ

・研究レポートを日研生用のウェブサイトに掲載し、他の研究者から問い合わせがあった場合は、速やかに修了生に連絡して、研究の進展を支援しています。

・研究レポートを卒業論文作成へとつなげるために、帰国後も「課題研究」担当教員が卒業論文執筆援助を行います。

・Facebookを活用し情報提供を行います。

・キャリアパスの例

1) 母国の出身大学に就職し、日本語教育学の仕事に従事

2) 日本の大学院に進学

3) 日本企業に就職

4) 母国の日本国大使館に就職

■問合せ先

<担当部署>

秋田大学国際課留学生交流・支援担当

住所：〒010-8502

秋田県秋田市手形学園町1番1号

TEL：+81-18-889-2258（直通）

FAX：+81-18-889-3012

Email: ryugaku@jim.u.akita-u.ac.jp

<ウェブサイト>

秋田大学国際交流：

www.akita-u.ac.jp/honbu/global/ja/

秋田大学：

www.akita-u.ac.jp/



もちつき



スキー体験



農家民泊



山形大学 (山形県)

地域の人や風俗習慣等、山形文化の魅力にはまってみましょう！

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

山形大学は、6学部と6大学院研究科を備え、約9,000人の学生が勉学に励む、東日本でも有数規模の総合国立大学です。2019年には創立70周年を迎えた歴史と伝統を受け継いでおり、優れた人材を多く社会に送り出しています。山形大学は、「地域創生」「次世代形成」「多文化共生」の3つの使命と「創造性及び豊かな人間性を有する人材を育成する」という教育の基本理念に基づき、新時代に相応しい人間力を養い、知・徳・体の調和のとれた人材を社会に輩出することを目指しています。

② 国際交流の実績

海外機関との交流協定数：38カ国・地域170機関

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

2023年：留学生数271人、日研生 1人

2022年：留学生数295人、日研生 1人

2021年：留学生数246人、日研生 0人

④ 地域の特色

山形県は、南東北の日本海側に位置している。四季折々に、豊かな自然と歴史を身近に感じることができる。県内各地には温泉地があり、さくらんぼなどの果物の栽培も盛んである。また、2年毎に山形国際ドキュメンタリー映画祭が開催され、世界中から監督やファンが集まって交流を深めている。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

b) 主に日本語能力の向上のための研修

② 研修・コースの特色

山形大学には、日本語・日本文化に関する幅広い領域の科目があり、充実したコースが組まれている。日本語科目は、研究に必要な言語能力を伸ばすことを目指して科目が構成されている。多文化交流科目と各専門科目では、言語学、文学、歴史、異文化交流、社会学、地理、経済、政治、音楽、美術、教育など様々な角度で日本文化を学ぶことができる。また、1年計画で自らの選択したテーマに沿って研究プロジェクトを行うことが本プログラムで特に力を入れている点である。このプログラムでは、口頭発表をし、修了論文を書くことを目指している。

③ 受入定員

4名（大使館推薦2名、大学推薦2名）

④ 受講希望者の資格、条件等

- 1) 主専攻あるいは副専攻が日本語・日本文化に関する分野であること。
- 2) 日本語能力試験 N2合格以上またはそれに準ずる日本語力を有することが望ましい。日本語を使って自分の考えが表現でき、日本人と話し合うことのできる日本語力を持つこと。



⑤ 達成目標

- ・山形の人々との交流を通して、地域に根ざした日本文化への理解を深める。
- ・専門科目を受講して日本語による学術的な内容の理解力を養う。
- ・自ら行う研究プロジェクトで、修了論文を作成し、報告会で発表することができる運用力を身につける。

⑥ 研修期間（在籍期間）

研修期間：2024年10月上旬 ～ 2025年9月下旬
（在籍期間：2024年10月1日～2025年9月30日）

⑦ 奨学金支給期間

2024年10月 ～ 2025年9月



べにばな染め体験

⑧ 研修・年間スケジュール

日本の家庭訪問、見学旅行、地元の祭り(例:花笠まつり)、いも煮会などを通じて、地域の人々と知り合い、日本文化を体験することができる。また、茶道、生け花、こけし絵付け、座禅、着付けなどへの参加を予定している。

9月下旬: 渡日
9月: オリエンテーション
10月: フィールドトリップ
11月: 研修旅行
12月: 留学生懇談会
1月: スピーチ発表会
4月: お花見
8月: 留学生日本語発表会
花笠まつり
9月下旬: 帰国



山寺(奥の細道)

⑨ コースの修了要件

「⑩研修・コース科目の概要・特色」の要件を満たし、本プログラムを修了した者には、修了証が発行される。また、成績証明書が発行される。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴
授業は前期(4~8月)、後期(10~2月)各15週開講される。Iは、日研生のための必修科目である。選択科目の授業は、I、II、IIIの三つの種類がある。Iは留学生向け日本語科目で、II、IIIは日本人学生とともに学ぶ科目である。このプログラムを修了するには12科目以上の履修が必要で、そのうち6科目以上は、I、IIの分野から選択するものとする。



小白川キャンパス

2) 研修・コース開設科目

I) 必修科目(各15週)

研究プロジェクトI: [後期]

研究プロジェクトII: [前期]

本プログラムの必修科目。指導教員の個別指導を受けて選んだテーマについて、日本語で研究レポートを書く。学期の最後には、各自のテーマについて最終発表を行う。

II) 選択科目

I、II、IIIの各科目は、すべて選択科目である。I aの日本語中級1「総合」、日本語中級2「総合」はいずれも週4コマであるが、他の授業は全て週1コマである。

3) 研修科目で地域の見学や地域交流等の参加出来る科目及びその具体的な内容
IIの科目では、地域の人々と交流する。

4) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

I 日本語科目

a. 日本語研修コース[前期・後期]

日本語中級1「総合」	中級前半
日本語中級1「読む」	中級前半
日本語中級1「書く」	中級前半
漢字3	中級漢字
日本語中級2「総合」	中級後半
日本語中級2「読む」	中級後半
日本語中級2「書く」	中級後半
漢字4	中級漢字

b. 基盤共通教育科目[前期・後期]

日本語上級1「話す」	上級前半
日本語上級2「話す」	上級後半
日本語上級1a「書く」	上級前半
日本語上級1b「書く」	上級前半
日本語上級2a「書く」	上級後半
日本語上級2b「書く」	上級後半

日研生は主に日本語上級から選択して履修します。「話す」では、大学で必要な会話の練習、発表やディスカッションで必要な日本語の練習を行います。「書く」では、レポートや論文など、大学の学習・研究活動に必要な文章を書く練習を行います。

c. 人文社会科学部専門日本語科目

日本語 a [前期]

スピーチ・ディスカッション・レポートトレーニング

日本語 b [後期] 読解・聴解・作文

II 日本文化・多文化交流・地域学科目

日本文化入門[前期・後期]

地域のリソースを活かし、茶道、こけし絵付け、平清水焼き、座禅、温泉などの日本文化を体験しながら学習する。

多文化共生を考える(文化論)[後期]

授業内での異文化交流体験を通して、異なる言語や文化的背景を持つ他者を知り、多様な背景を持つ他者と共生していくために必要となる態度とコミュニケーションスキルを身につける。

フィールドワーク-共生の森もがみ[前期]

山形県北部の最上地方で地元の達人を講師に、森と関わる暮らしや独特の祭りの山車作り等を体験する。

異文化理解演習[前期]

通過儀礼を通して日本文化・社会及び台湾文化・社会を理解する。異なる文化的な背景を持つ者(日本人学生、留学生)同士で議論することによって異文化理解の知識を身に付ける。



↑ そば打ち

←出羽三山の杉並木



English Camp

Ⅲ 人文・社会科学科目

a. 人文社会科学部開講科目

日本語学特殊講義 a〔後期〕

日本語の歴史について、特に文献研究の立場から考察を進める。

日本語学概論〔前期〕

日本語の歴史について解説する。

日本語文法概論〔後期〕

現代日本語の記述的文法を解説する。

日本語文法特殊講義 b〔前期〕

日本語の話しことばや書きことばによる実際のコミュニケーションを分析対象とする談話分析や文章論と呼ばれる分野の研究を取り上げて解説する

日本語学演習 a〔前期〕

日本語の歴史分野に関する文献を読み進める。

日本語教育学概論〔前期〕

日本語教師になるために必要な基礎的な知識を学ぶ。

日本語教育学基礎演習 b〔前期〕

典型的な日本語初級の授業の流れを理解し、教室活動をデザインする。模擬授業を行い互いに評価・分析する。

日本語教育学特殊講義 a〔後期〕

日本語教師になるために必要な要件の一つである、日本語教育能力検定試験の過去問を解き、練習及び解説を行うことで、日本語及び日本語教育学の基礎知識を固める。



さくらんぼ狩りの後、木の下で記念撮影

映像学概論〔前期〕

映画の分析論。日本映画の分析を含む。

日本古代中世文学特殊講義 b〔後期〕

和歌・連歌の形態を学び、歌合・連歌会を体験することで短詩の役割を理解する。

日本近現代文学特殊講義 a〔後期〕

明治以降平成までの小説、詩、評論などを読む。

地誌学〔後期〕

地域で観察されるさまざまな現象と歴史的、自然的風土との関係を理解する。

比較文化・文化交流史概論〔後期〕

近現代の日米関係を軸として、比較と交流史の視点から、日本文化の変容について論じる。

日本歴史文化論（日本学入門）〔前期〕

日本と東アジアの歴史的交流とその意義について基本的な理解を深める。

b. 地域教育文化学部開講科目

国語学概論Ⅰ〔前期〕

音声・音韻、語彙、文法などを中心に日本語の基礎知識を広く得る。

国語学概論Ⅱ〔後期〕

現代日本語の諸分野のうち、特に音声学の事項について解説する。国語学概論Ⅰの内容を理解している前提で講義する。

c. 基盤共通教育開講科目〔前期・後期〕

特定の分野に偏らず、幅広い学問分野を学ぶことができる。自分で関心がある科目を選択し、履修する。

⑪ 指導体制

1) プログラム実施教員

学士課程基盤教育院の教員が実施する。

内海由美子 教授 日本語教育

尤銘煌 教授 社会学

今泉智子 准教授 日本語教育

2) 指導教員

人文社会科学部、地域教育文化学部、または学士課程基盤教育院の教員が研究プロジェクトのための個別指導を行う。研修生は指導教員の部局に所属する。

■宿 舎

短期留学生は60名まで山形大学山形国際交流会館などの宿舎に入居できる。宿舎は、大学へ自転車などで通学できる場所にある。

（例：山形国際交流会館（香澄町）単身室）

1) 宿舎費（1ヶ月）+共益費（1ヶ月）+保証積立金（一時金） 5,900円 + 4,000円 + 30,000円

2) 宿舎設備・備品

ベッド、机と椅子、エアコン、ガスFF暖房機、冷蔵庫、食器戸棚、本棚、洋服ダンス、ミニ・キッチン、シャワー、トイレ



■修了生へのフォローアップ

これまでの修了生たちと、本学で指導に当たった教員たちとの間では継続して連絡がとられている。修了生のほとんどが日本か母国で大学院に進学し、さまざまな分野でキャリアを積んでいる。

■問合せ先

<担当部署>

山形大学エンrollment・マネジメント部国際交流課

住所：〒990-8560

山形県山形市小白川町一丁目4-12

TEL： +81-23-628-4017（直通）

FAX： +81-23-628-4836

Email： yu-rngkokusai@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

<ウェブサイト>

山形大学：

<https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/>

茨城大学 (茨城県)

日本語・日本文化の体験的学修

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

(1) 特色と歴史

本学は昭和24年新制大学としてスタートし、現在は人文社会科・教育・理・工・農の5学部と人文社会科学・教育学・理工学・農学研究科の4大学院を有する総合大学として発展している。教育の伝統は、少人数によるゼミナール形式授業の重視、現代的・地域的課題に取り組む実学研究の重視等である。

(2) 教員及び学生数

2023年5月1日現在の教員数は503名、正規生の学生数は、学部生6,750名、大学院生は1,254名である。

② 国際交流の実績

茨城大学は、海外24ヶ国の76大学等と交流協定を結んでおり、外国人研究者と留学生を多数受け入れている。

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

2023年：留学生数197名、日研生1名
2022年：留学生数202人、日研生0人
2021年：留学生数268人、日研生1人

④ 地域の特徴

東京から北東100kmに位置する水戸市は、茨城県の政治・経済・文化の中心地として古くから発展してきた都市である。市の中心地には、日本3名園のひとつ、徳川家ゆかりの「偕楽園」があり、春になると梅を楽しむ人々が賑わう。広大な緑地や千波湖は市民の憩いの場として親しまれている。



■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

a) 主に日本事情・日本文化に関する研修

主に人文社会科学部で開講される授業の中から学生の興味や専攻に合わせて授業を選択し、専門教育を通じて日本事情や日本文化に関する理解を深めることを目的とする。

併せて、学生の日本語能力に応じて「学術日本語」や「日本語研修コース」を受講し、大学生活に必要な日本語能力を高める。

② 研修・コースの特色

研修生は留学生のためのクラス及び日本人学生と同一のクラスで学び、更に日本社会で生活することにより、日本語・日本文化を体験的に学ぶことができる。コース形態は下記のとおりである。

・日本語・日本事情：

グローバル教育センター・基盤教育科目で開講される主に留学生のための日本語・日本理解のための授業

・日本文化：

日本人学生と日本について学ぶ基盤教育科目

・日本関連科目：

人文社会科学部で開講される授業

③ 受入定員

2名（大使館推薦1名、大学推薦1名）

④ 受講希望者の資格、条件等

来日前に日本語の学習歴を有し、日本語で行われる授業の参加に必要な日本語能力を備えていること。（日本語能力試験N2以上）

⑤ 達成目標

日本語・日本文化を学びながら、同世代の日本人学生と積極的にコミュニケーションを図ることで、より一層日本への関心や興味を持ち、理解を深めていく事を達成目標とする。

⑥ 研修期間（在籍期間）

研修期間：2024年9月下旬 ～ 2025年8月下旬
（在籍期間：2024年9月21日～2025年8月31日）

⑦ 奨学金支給期間

2024年10月 ～ 2025年8月

⑧ 研修・年間スケジュール・

9月下旬：渡日（2023年は9月21日）
オリエンテーション

10月：留学生支援団体及び地域住民等との
交流会、国際交流パーティー

11月～12月：学外研修

5月：学外研修

7月：全学の留学生とともに、関東または東北
方面への国際交流研修

未定：日本文化体験（茶道、華道）

未定：中学・高校生との交流

8月末：修了式

8月末：帰国（2021年度は8月31日）



⑨ コースの修了要件

a. 必修科目

日本語研修コースで開講される所定の授業を履修する。プレイスメントテストの結果により、指定される必修授業を履修すること。

b. 選択科目

以下の授業科目の中から、自身の興味・関心と日本語力に応じて科目を選択し履修する。

- ・ 基盤教育科目（学術日本語を含む）
- ・ 人文社会科学部専門科目

a, bの科目群から計32単位相当の単位を取得することが修了要件となる。なお、成績証明書の発行は可。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

研修生のレベルに対応する日本語授業の履修を中心とし、選択科目として日本語・日本文化に関連する科目を履修する。

授業は原則として、前期(4月～7月下旬)と後期(9月下旬～1月下旬)各16週（内1週はテスト）開講される。

2) 研修・コース開設科目

I) 必須科目（○コマ数、時間数）・内容

グローバル教育センター開講科目

レベル4:総合（6単位相当）：文法・文型・発表型授業

レベル4:漢字（2単位相当）：上級漢字

レベル5:総合（2単位相当）：文法・文型

日本事情（2単位相当）：日本文化・習慣

日本体験学習（2単位相当）：地域交流・見学

・プレイスメントテストの結果により指定される必修科目を受講すること。

・これらのクラスは茨城大学の「単位」ではないため、単位相当としている。

II) 選択科目

a. 基盤教育科目

「学術日本語I」（1単位）：学術的な日本語の基礎

「学術日本語IIA」（1単位）：学術的な日本語の応用

b. 人文社会科学部及び全学教育機構で開講される日本語・日本文化に関連する科目及び日本を理解する上で役立つ他の科目の中から、留学生が指導教員と相談の上、授業科目を選択し受講する。

3) 研修科目で地域の見学や地域交流等の参加出来る科目及びその具体的な内容

前述2)の必須科目の下記科目が含まれる。

・ 日本体験学習

また、選択科目として下記科目等の履修が可能。

・ 5学部混合地域PBL：

地域課題の問題解決を主目的として、グループ学習やプロジェクトを遂行しながら行う学習を学部横断で取り組むもの。

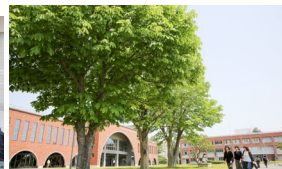
4) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

前述2)の必須科目以外はほぼすべて日本人学生との共修である。

⑪ 指導体制

当該の留学生の関心領域に近い専門の教員が指導教員となり、グローバル教育センター教員が協力して、日本文化及び関連分野についての勉強が進むように指導する。

また、国際交流等に関心の高い日本人学生をチューターとして配置し、勉強面のみならず、生活面に渡るサポート体制を組む。



■ 宿 舎

国際交流会館

○ 宿舎数

単身用：（旧棟）38室 （新棟）35室

夫婦用：2室 世帯用：2室

○ 寄宿料

（月額）※前納：無し

単身用：（旧棟）5,900円（新棟）20,400円

夫婦用・世帯用：14,200円

○ 宿舎周辺の生活情報、通学時間

国際交流会館から本学までは徒歩15分位で、入居期間は1年以内である。



■ 修了生へのフォローアップ

修了後の研究に対し、要請に応じてEメール等を通じて協力助言する。

■ 問合せ先

<担当部署>

茨城大学学務部国際交流課

住所：〒310-8512

茨城県水戸市文京2-1-1

TEL：+81-29-228-8056（直通）

FAX：+81-29-228-8594

Email：StudentExchange01@ml.ibaraki.ac.jp

<ウェブサイト>

茨城大学グローバル教育センター：

<http://cge.lae.ibaraki.ac.jp/>

茨城大学：

<https://www.ibaraki.ac.jp/>



宇都宮大学 (栃木県)

世界遺産の日光、最先端テクノポリス、豊かな自然の近くでの研修

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

宇都宮大学は栃木県の中央に位置する宇都宮市にある大学で、6つの学部をはじめ、従来の4つの研究科がひとつになった大学院（地域創生科学研究科）および教職大学院からなる総合大学である。大きな大学ではないので、大学生活の様々な面で学生に対してきめ細やかに対応しており、学部や研究科間で連携した教育・研究活動も行いやすい。

●教員数と学生数（2023年5月1日現在）

教員数： 322 名
学生数： 5,044 名
（学部 4,069名・大学院 975名）

●学部と研究科

＜データサイエンス経営学部＞

2024年4月に新たに発足。データサイエンスと経営学の実践的知識を習得し、課題解決や意思決定、価値創造に繋げる次世代人材を育成する。

＜地域デザイン科学部＞

2016年4月に新たに発足。地域の魅力を引き出し、より良い地域を形成するために必要な、幅広い知識と専門技術を総合的に学ぶ。

＜国際学部＞

国際的な視野から社会と文化の総合的な教育研究を行い、世界で活躍できる人材の育成を行う。海外からの留学生、海外に留学する学生がともに多い。

＜共同教育学部＞

教員養成に長い歴史を持ち、学校教育をはじめ、多方面で活躍できる人材を養成している。

＜工学部＞

自然環境及び人工環境と人類の共生をめざした先端的研究を行っている。

＜農学部＞

宇都宮高等農林専門学校からの長い伝統を持つ一方、バイオテクノロジーや国際協力などの先端的な研究分野で大きな成果をあげている。

＜地域創生科学研究科＞

従来の国際学研究科、教育学研究科、工学研究科および農学研究科が再編され、2019年4月に発足。持続可能で豊かな地域社会の創生を理念に、博士前期課程に社会デザイン科学専攻と工農総合科学専攻、博士後期課程に先端融合科学専攻を設置している。

＜教職大学院＞

現職教員を主な対象に、専門性のより高い教員養成を目的とした専門職大学院である。

② 国際交流の実績

留学生の数：227名（28 か国・地域）
大学間・部局間交流協定校の数：87大学
（いずれも2023年5月1日現在）

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

2023年：留学生数138人、日研生6人
2022年：留学生数136人、日研生4人
2021年：留学生数140人、日研生4人

④ 地域の特色

本学のある宇都宮市は東京の北100km（新幹線で約50分）に位置している。宇都宮市は人口約52万人で、東には鬼怒川（キヌガワ）、北には那須山地、西には世界遺産の観光地・日光など、美しい環境に恵まれている。日本最古の大学、足利（アシカガ）学校に代表される学問的伝統や、日本で一二を争うイチゴなど農産物の開発、テクノポリスを構成する工業技術など、アカデミズム・先端的科学技術の発信地となっている。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

a) 主に日本事情・日本文化に関する研修

② 研修・コースの特色

本コースは、宇都宮大学留学生・国際交流センターが全学の協力を得て行う研修プログラムで、以下の2つの研修を行う。

【1. 日本の文化や社会についての研究】

研究テーマを設定し、そのテーマに相応しい指導教員の下に研究を行い、その成果を研修論文としてまとめ、発表し、提出する。

なお、マンガやアニメなどのサブカルチャーをテーマとする場合、それを専門とする教員が本学にはいないため、指導は難しい。

【2. 日本語能力の向上】

上記の研究と並行して、日本語の授業や日本語で行われる大学の授業を受講し、自らの日本語能力の向上を図る。

③ 受入定員

10名（大使館推薦5名、大学推薦5名）

④ 受講希望者の資格、条件等

以下の(1)と(2)をとともに満たすことが必要である。

(1) 専攻分野

派遣元大学において日本語・日本文化に関する分野を主専攻としていること。

(2) 日本語能力

中上級レベル（日本語能力試験N2合格程度）以上の日本語能力を持っていること。

⑤ 達成目標

本研修留学生は、入学の翌年8月のプログラム修了時点で、日本語能力検定試験のN1レベル相当の日本語能力を習得し、学部卒の卒業論文に相当する研修論文を執筆することを目標とする。

⑥ 研修期間（在籍期間）

研修期間：2024年9月23日 ～ 2025年8月31日
（在籍期間：2024年10月1日～2025年8月31日）

⑦ 奨学金支給期間

2024年10月 ～ 2025年8月

⑧ 研修・年間スケジュール

9月最終週：渡日（2023年は9月25日～29日）

10月：オリエンテーション
10月新規来日留学生歓迎パーティー

11～12月：学外研修・高校訪問・地域との交流会など

1月：研修テーマの構想・中間レポートの作成

2～3月：自主研修（現地調査など）

4～7月：研修テーマの発表・研修論文の執筆
七夕の集い（栃木県内の留学生対象）

8月上旬：研修論文発表会・学外研修

8月下旬：帰国（2023年は8月25日～31日）

※上記のスケジュールは変更になる場合もある。

⑨ コースの修了要件

以下(1)～(3)を全て満たすことを修了要件とする。コース修了者には成績証明書に加え、修了証書を与える。

(1) 必須（必修）科目4科目（演習2科目を含む）を履修すること

(2) 選択科目12科目（本プログラムに関連した内容の科目）を履修すること

(3) 研修論文を執筆し、期日までに提出するとともに、研修論文の内容を「日研生研修論文発表会」で発表すること

※なお、研修終了日より以前に早期帰国を希望する場合には、事前相談に基づき事情を判断し、所定の手続を踏むことを条件に、認める場合がある。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

・開講部局は留学生・国際交流センター、基盤教育（全学共通の基礎科目）、各学部である。

・授業時間は1回（1コマ）90分、全科目15回である。

・必須（必修）科目を4科目、選択科目を12科目履修する

2) 研修・コース開設科目

I) 必須科目

（留学生・国際交流センター開講科目、各2単位）
・日本語・日本文化Ⅰ…日本語と日本文化について日本語で学ぶ。

・日本語・日本文化Ⅱ…日本語と日本文化について日本語で学ぶ。

・日研生特別研究Ⅰ…各自の修了研究の準備を進めるとともに、学外研修などを通じて、日本社会や日本文化に触れる機会を設ける。

・日研生特別研究Ⅱ…定期的に調査研究の進捗状況を報告し合い、その内容について互いに検討し、研修論文の完成を目指す。

本研修留学生は、日本の文化や社会、あるいは日本語に関わるテーマについて、1年間にわたる調査・研究を行い、その成果を日本語でまとめた研修論文（12,000字以上）を執筆する。また「研修論文発表会」でその概要について口頭発表（約10分）を行う。

II) 選択科目

・選択科目として、基盤教育、国際学部、共同教育学部、留学生・国際交流センター開講科目から、12科目の履修が必要である。以下に挙げるのは履修を推薦する科目の例であるが、日本語能力と各自の研究テーマに応じて他の授業科目を選択できる。どの科目を履修するかについては、各学期の初めに、担当教員や指導教員と相談して決定する。

・本学の授業科目（留学生・国際交流センター開講科目を除く。）の2022年度の時間割とシラバスは、本学ウェブサイト（次頁問合せ先参照）で確認することができる。

○ 選択科目Ⅰ：上級レベル日本語科目の例（各1単位）

「日本語アカデミック・リーディングⅠ」
「日本語アカデミック・リーディングⅡ」
「日本語アカデミック・ライティング」

○ 選択科目Ⅱ：日本文化関連科目の例（各2単位）

「日本語論」「日本語史」「日本文化論」
「日本文学概説A」
「多言語コミュニケーション学B」
「多文化共生コアB（異文化間コミュニケーション）」
「Japanese Communication Arts」
「グローバル入門」
「移民と多文化教育」

※年度によって開講科目が変更になる場合がある。

3) 研修科目で地域の見学や地域交流等の参加出来る科目及びその具体的な内容

・栃木県内の名所・旧跡などを見学する学外研修や、留学生を対象とした県内高校の訪問や地域交流団体との交流行事等を予定する。

4) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

・必須科目以外の選択科目として、日本人学生などが履修する正規科目を履修することが可能である。これらの科目を履修することで、日本人学生と共修する機会を得ることができる。

⑪ 指導体制

本コース研修留学生は本学留学生・国際交流センターに所属し、プログラム担当教員と研修論文の指導教員の連携による指導を受ける。

○プログラム担当教員：

本コースのコーディネーターとして全学的な協力の下に研修留学生が充実した研修を行えるよう指導教員等と連携をとりながら指導・助言を行う。

・飯塚 明子（留学生・国際交流センター准教授）
専門：国際協力・コミュニティ防災

・2024年4月に更に1名専任教員が着任予定

○指導教員：

研修留学生は研修テーマに応じて専門分野の教員の研究指導を受けることができる。指導教員は、来学後に研究テーマに基づいて全学の教員の中から決定される。

■宿 舎

原則として、日本語・日本文化研修留学生は、本学留学生寮（国際交流会館）の単身室に入居する。なお、国際交流会館に空室がない場合は、自分で民間アパートを契約し、入居することもある。

○国際交流会館（単身室）

【家賃】月額 6,500円

【原状回復費】31,900円（※1年間分）

【設備】

A棟：ベッド、机、椅子、書棚、エアコン、トイレ、ユニットバス（※キッチンはないため、共用のキッチンを利用する）

C棟：ベッド、机、椅子、書棚、エアコン、トイレ、キッチン（※ユニットバスはないため、共用のシャワー室を利用する）

※A棟・C棟のどちらに入居することになるかは大学の判断により決定されます。学生が選ぶことはできません。

○民間アパートに入居する場合、入居当初にかかる諸費用の例

- ・居室料（単身用・月額） 40,000円前後
- ・敷金（居室料の1ヶ月分）
- ・礼金（居室料の1ヶ月分）
- ・手数料（居室料の1ヶ月分）
- ・ガス開栓等の手数料 15,000円前後
- ・保険料 4,500円～9,000円 前後

合計 10万円 ～15万円前後

※エアコンが設置されたアパートは比較的多い。
その他は来日後、各自で購入等の必要がある。



■修了生へのフォローアップ

研修修了後も、希望者には進路や研究内容等について、メールなどにより、随時相談・助言等を行っている。

○過去の修了生の進路の例：

- ・本学大学院進学
- ・本学以外の日本の大学院進学
- ・母国での通訳・翻訳者
- ・母国での大学教員
- ・日系企業への就職



■問合せ先

<担当部署>

宇都宮大学学務部学生支援課留学生・国際交流室

住所：〒321-8505

栃木県宇都宮市峰町350

TEL： +81-28-649-8166（直通）

FAX： +81-28-649-5117

Email： ryuugak1@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp

<ウェブサイト>

宇都宮大学ウェブサイト：

<https://www.utsunomiya-u.ac.jp/>

宇都宮大学留学生・国際交流センター：

<https://intl.utsunomiya-u.ac.jp/>



群馬大学 (群馬県)

日本語・日本文化、教育学、情報学を学び、地域社会の視点から日本の文化を考察する。

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

(1) 特色と歴史

群馬大学は1949年に設立。東京から北西に約100 kmに位置し、共同教育学部、情報学部、医学部、理工学部、生体調節研究所、附属図書館、医学部附属病院、グローバルイニシアチブセンター等の学部等で構成している。

共同教育学部は、グローバルに物事をとらえながら、未来社会を支える人間を育成するために、人間の発達と成長を主な対象として教育の目的、方法、および内容などについて理論的・実践的な教育・研究を進めている。共同教育学部には、教員養成を主たる目的とする課程があり、4系・13専攻に分かれながら、深い専門性と実践的な指導方法を身に付ける。

情報学部では、科学技術と人間社会の調和が求められる持続可能社会の実現において、情報を基軸とした文理横断型の教育により、Society 5.0を支え、IoT、ビッグデータ、統計的解析手法等のスキルを持ち、人文科学、社会科学、自然科学の知識を有した人材を育成する。

グローバルイニシアチブセンターでは、留学生のための日本語・日本事情科目を開講し、学習相談を実施している。また日本研究のため「日本美術演習」「邦楽器演習」という実践科目も履修でき、総合的に日本理解ができるプログラムが用意されている。

(2) 教員・学生数等 (2023年5月1日現在)

教員数：875人

学生数：学部 5,035人、大学院 1,237人

② 国際交流の実績

留学生在籍数：222人 (19カ国 1 地域)

(2023年5月1日現在)

海外の大学との交流協定：117件 (28カ国 1 地域)

(2023年5月1日現在)

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生 (日研生) の受入れ実績

2023年：留学生数222人、日研生4人

2022年：留学生数223人、日研生4人

2021年：留学生数233人、日研生5人

④ 地域の特徴

関東平野の北に位置し、美しい山々に囲まれ、温泉も多く、1年を通じて四季折々の自然豊かな景色・産物が楽しめ、東京近郊から電車で約2時間ほどである。

一方、外国人が急増し、その多文化共生のため様々な活動を群馬大学が実施し重要な役割を果たしている。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

a) 主に日本事情・日本文化に関する研修

② 研修・コースの特色

本学では日本語・日本文化研修プログラムを通称「Jプログラム」として、日本語の能力や技能を高めながら、日本を研究対象とする諸研究を行うのに必要な知識を身につけることを目指す。プログラム期間中に行われる諸活動に参加することで、日本語や日本文化、日本社会についての理解を深めることができる。

本人の希望する専門分野により、共同教育学部又は情報学部のいずれかの研究室に所属し、更なる日本語能力の向上を図りつつ、専門性をより高めることを目的としている。また、例年、当プログラムが行われる荒牧キャンパスには多数の交換留学生が在籍しており (2023年度は5協定校から8名)、日本語能力試験N1レベルや大学院レベルの交換留学生もおり、短期留学生が多様なレベルで存在している。

そのため、交換留学生のための日本の伝統文化を学ぶプログラムも用意されており、日本画、邦楽 (箏、三絃) の実技を専門家から学ぶ機会もあり、日本文化をより深く学ぶことが出来る。

③ 受入定員

7名 (大使館推薦3名、大学推薦4名)

④ 受講希望者の資格、条件等

(1) 一般的な会話や読み書きができ、専攻する科目について日本語による授業科目の内容を理解する者。日本語能力試験N2以上相当が望ましい。

(2) 日本語・日本文化に関する分野を専攻する者。

⑤ 達成目標

修了時に、日本語で研究論文を作成し、自分の研究について口頭発表や質疑応答ができるようになること。

- ⑥ 研修期間（在籍期間）
2024年9月下旬～2025年9月下旬
（2024年10月1日～2025年9月30日）

- ⑦ 奨学金支給期間
2024年10月～2025年9月

⑧ 年間行事・年間スケジュール

- 9月下旬 渡日（予定）
10月 新入学留学生受入式
オリエンテーション
留学生相談会
チューターオリエンテーション
留学生特別健康診断
インターナショナルキャンプ
12月 各学部留学生懇談会
1月 伝統文化実践科目邦楽演奏会
3月 茶道、書道、華道の伝統文化体験
4月 全学健康診断
8月 Jプログラム研究報告会
伝統文化実践科目邦楽演奏会
9月 Jプログラム研究論文提出
9月下旬 帰国

邦楽器演奏



日本美術演習



⑨ コースの修了要件

コースの修了要件は以下のとおり。コース修了者に修了証書を発行する。

- ・必修科目60時間、選択科目300時間以上を受講すること。
- ・課題研究について、コース期間の終わりにプレゼンテーションを行い、論文を提出すること。

授業の種類		第1期(10-3月)	第2期(4-9月)
日本語	選択 10コマ	4コマ（120時間）または8コマ（240時間）	
学部・教養教育科目		6コマ（180時間）または2コマ（60時間）	
Jプログラム日本入門 特別講義*1	必修 2コマ		1コマ（30時間）
課題研究(個別指導)*2			1コマ（30時間）

*1：「Jプログラム日本入門特別講義」：「日本における研究」をテーマに、学内教員によるオムニバスの特別授業（協力教員14名/半期）

*2：課題研究は指導教員による論文指導である。第2期の終わりにプレゼンテーションをして、論文を提出しなければならない。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

Jプログラムは、日本語の能力や技能を高めるだけでなく、日本を研究対象とした諸研究を行うのに必要な知識や実社会でも役立つ日本語・日本文化に関するさまざまな知識を身につけることを目指す。また、期間中に行われる諸活動に参加することによって、日本語、日本文化、日本社会についての理解を深めることができる。修了時に、日本語で研究論文を作成し、自分の研究について口頭発表や質疑応答ができるようになることがこのプログラムの目標である。

2) 研修・コース開設科目

授業は原則として、前期・後期各15週開講する。日本語、日本事情、伝統文化実践科目、学部・教養科目から履修する。

I) 必須科目（2コマ、60時間）「Jプログラム日本入門特別講義」と「課題研究（個別指導）」

II) 選択科目（10コマ、300時間）

II-1) 教養教育「日本語・日本事情科目」（以下の科目から選択する）

科目名	学期	時間数	授業内容
日本語口頭表現	秋・春	60	聴解・会話、発表演習
日本語表現文型	春	60	文型の意味を理解し、運用することを目指す
日本語総合	秋	30	正確な日本語の運用を目指す
日本語読解	秋・春	60	専門書読解、要約・作文練習
日本語文章作成	秋・春	60	レポート・論文作成
日本語作文	秋・春	60	文章表現、レポート作成
日本語聴解	春	30	聴解・会話、発表演習
日本事情A	春	30	日本文化論講座
日本事情B	秋	30	日本の政治・社会
邦楽器演奏	秋・春	各60	箏・三絃演奏
日本美術演習	秋・春	各60	日本画演習

II-2) 共同教育学部と情報学部で開設される専門科目の授業、教養科目授業から選択する。

3) 研修科目で地域の見学や地域交流等の参加できる科目及びその具体的な内容
特になし

<見学>

年に1回、留学生と日本人学生合同で、近隣県の研修旅行(1泊2日)を予定している。その他、日本美術演習の一環で、東京や千葉、県内の美術館等への日帰り見学を定期的に行う。



<地域交流>

群馬県内の小学校や中学校から国際理解講座の授業への留学生派遣依頼に応え、Jプログラムの学生が積極的に訪問している。



インターナショナルキャンプ



また、前橋市国際交流協会が実施するホスティングプログラムへの参加、講師としてイベントへの派遣など、地域住民との交流も活発に行っている。

4) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

1年生対象の教養教育科目「日本事情」では文理さまざまな日本人学生とグループワークを行う。また所属する学部での演習等で日本人学生と議論できる。

⑪ 指導体制

(1) コーディネーター：野田岳人教授

(2) 指導体制：

学部の指導教員と国際センターの教員が、研究指導及び修了研究のための指導を行う。その他、国際センター教員(生活相談を含む)やチューターの日本人学生が日本語学習や日常生活の支援する。

■宿 舎

キャンパスから4km離れたところに単身用23室を有する群馬大学国際交流会館があるが、状況によっては満室の可能性もある。入居できない場合は、原則日研生のために、キャンパスに近い民間アパートを準備する。おおよそ30,000円/月程。その他、公共料金(電気、ガス、

水道、インターネット、携帯電話)が10,000～20,000円/月程必要となる。同時期に来日する交換留学生用のアパートと同様の扱いを行う。

■修了生へのフォローアップ

Jプログラム修了生のデータベースを作成する。また、日本への大学院進学などについて、助言・相談を実施する。



国際共修(日本人学生と留学生の混成クラス)の授業風景

■問合せ先

<担当部署>

群馬大学学務部海外交流課

住所 〒371-8510

群馬県前橋市荒牧町四丁目2番地

TEL +81-27-220-7637 (直通)

FAX +81-27-220-7630

E-mail g-exchange@jimu.gunma-u.ac.jp

<担当教員>

グローバルイニシアチブセンター 教授

野田 岳人

E-mail nodat@gunma-u.ac.jp

<ウェブサイト>

群馬大学ホームページ

<https://www.gunma-u.ac.jp/>

群馬大学国際交流・留学ホームページ

<https://www.guic.gunma-u.ac.jp/>



埼玉大学 (埼玉県)

多様な日本語・日本文化科目を提供します

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

埼玉大学は、東京圏に位置した総合大学としての使命を果たしている。本学は、旧制の浦和高等学校、埼玉師範学校ほかを母体として1949年に創設されてから70余年が経過し、教育・研究の場の整備を着実に進めており、地域の学術交流の拠点に成長しつつある。留学生数は500人を超え、活発な国際交流が行われている。

また、海外からの研究者の受入れや本学教員の国際的研究活動も増加している。本大学は5つの学部とさらに高度な教育・研究を推進するための3つの大学院研究科を設置しており、修士課程(博士前期課程)、博士課程(博士後期課程)が設置され、充実した大学院教育・研究が行える。特に大学院理工学研究科では国立研究開発法人理化学研究所と協力して博士後期課程を組織し、他大学に先駆けた新しい形の大学院教育を展開している。

日本語・日本文化科目に関する講義を多く開講している教養学部は、人文と社会にわたる多様な専門分野を含み、それぞれの専門の研究を基盤としている。

同時に各分野を有機的に関連づける総合的研究並びに各分野間の境界領域を探索する学際的研究を特に重視しているのが特色である。専門性と総合・学際性の調和を図ることで、現代に相応しい教養、柔軟な思考力、総合的判断力を備えた人材を養成することが教養学部の基本方針である。

日本語教育センターは埼玉大学の外国人留学生を対象に日本語を学習する機会を提供している。

② 国際交流の実績

2023年5月1日現在、117件の大学間学術交流協定と47件の部局間学術交流協定を締結している。

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生(日研生)の受入れ実績

2023年：留学生数528人、日研生0人

2022年：留学生数556人、日研生5人

2021年：留学生数579人、日研生4人

④ 地域の特徴

埼玉県は、関東平野の中央に位置する内陸県で人口はおおよそ730万人、東京に隣接し、電車で約1時間の位置にある。東日本の交通の要衝であり、首都機能の一翼を担う県として大きく躍進している。埼玉大学があるさいたま市は、東京から北方へ20km、人口133万人を擁する県都、江戸時代からの伝統を受け継ぐ、文教・文化都市として発展しており、また、住みやすい住宅都市とも言われる程交通機関がよく整備され、緑豊かな環境とあいまってスポーツの振興も盛んに行われている。



■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

- a) 主に日本事情・日本文化に関する研修
- b) 主に日本語能力の向上のための研修

学生の専攻に合わせたいずれかのコース選択が可能である。

② 研修・コースの特色

10月～3月(第1期/入学年度 第3・第4ターム)は日本語を中心に学び、4月～8月(第2期/翌年度 第1・第2ターム)は、日本語学習を継続しながら、学生の専門領域(日本文化・日本語学等)の知識を高め、日本と母国の架け橋になる国際人を育成するためのプログラムである。

③ 受入定員

9名(大使館推薦6名、大学推薦3名)

<埼玉スタジアム2002>



④ 受講希望者の資格、条件等

このコースを受講希望する者は、次の1) 及び2) を満たす者とする。

1) 日本語能力を有する者

一般的な事柄について会話や読み書きができ、専攻する科目について日本語による授業科目を聞き取りながら、内容を理解する能力を有する者。
(公財)日本国際教育支援協会と(独法)国際交流基金が実施する日本語能力試験N2以上に合格していることが望ましい。

2) 日本語・日本文化に関する分野を専攻する者又は、他の専攻分野に在学しつつ日本語・日本文化等に関する分野を学習している者。

⑤ 達成目標

1) 日本語と日本文化に関する技能や教養、自らの専門分野の知識を高めながら、日本語で情報収集ができ、日本語による高度な口頭発表や文章作成が行えるようになること。

2) 将来、母国における日本関係のエキスパートになるための基盤を養うこと。

3) 首都圏にある都市「さいたま」の文化や特色を学ぶこと。

⑥ 研修期間(在籍期間)

研修期間 2024年9月下旬 ～ 2025年8月下旬
(在籍期間 2024年10月1日 ～ 2025年8月31日)

埼玉大学では早期修了の制度はない。

⑦ 奨学金支給期間

2024年10月 ～ 2025年8月



埼玉大学
マスコット
キャラクター
「メリンちゃん」

⑧ 研修・年間スケジュール

9月下旬：渡日(2023年は9月20～21日)
各オリエンテーション

9月末：第1期 授業開始

11月下旬：埼玉大学祭「むつめ祭」

2月上旬：第1期 授業終了

4月上旬：第2期 授業開始

8月上旬：第2期 授業終了

8月下旬：修了証書授与
帰国(2023年は8月26日～31日)

※研修期間中は、任意でホストファミリープログラム(ホームステイやホームビジット/時期は年度によって異なる)や、在学生向けの各種国際交流イベントに参加できる

⑨ コースの修了要件

受講した科目については、出席数・試験等規定を満たした場合に単位を与える。

右記⑩ 2) II) 選択科目 i)、ii)、iii)の中から14科目以上の修得を修了要件とし、修了者には修了証書を交付する。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

学生自身の日本語能力や研究領域、関心等に合わせた内容の科目が受講できる。

埼玉大学の各学部、日本語教育センター、教育機構等で開講している科目の内から、週7コマ以上、年間14科目以上を自由に履修できる。

学生の専門領域に当たる各学部専任教員が、指導教員として指導を行う。

2) 研修・コース開設科目

I) 必須科目

学生の日本語能力や興味等に合わせて科目を履修するので、必須科目は設けない。

II) 選択科目

i) 日本語科目

- ・集中日本語コース
(初級Aクラス～上級Eクラス)
- ・学部「日本語」科目(上級)
(読解・作文・聴解・文章作成)

ii) 教養・スキル・リテラシー科目として
開設される人文・社会系科目
(例) 日本史概説、日本文学・文化概説

iii) 教養学部等にて開設される日本語・日本文化等に関する授業科目

・上記 i)、ii)、iii)の中から週7コマ以上、年間14科目以上受講する。

・時間数

1科目は試験を含めて16コマ
※1コマは90分

3) 見学、地域交流等の参加型科目

科目として開講されるかは年度により異なるが(2023年度は教養学部で、江戸・日本文化を学ぶための浅草訪問等を含む専門科目が開講)、任意で各種イベントやワークショップ等に参加できる。
(例) スタディツアー「埼玉学のすすめ」
2023年は11月に氷川の杜で、能楽体験や清掃のボランティア活動等を実施(時期と内容は年度により異なる)

4) 日本人学生との共修等の機会

教養学部開講の国際共修科目では、日本人学生との協働を主体とした授業を履修できる



⑪ 指導体制

- 1) 責任教員：所属学部指導教員
- 2) 協力教員：留学生担当教員
日本語教育センター教員
開設科目担当教員
- 3) 担当事務：所属学部事務室
留学・国際交流課



■宿 舎

埼玉大学国際交流会館には、単身室133室、夫婦室55室、家族室11室が、留学生居住用として用意されており、約260名を収容することができる。日本語・日本文化研修留学生は優先的に入居が認められる。退去日は8月下旬予定。

○単身室使用料：12,000円/月
管理費：12,900円/月
退去時積立金：13,000円×5か月
退去時清掃費：37,000～40,000円
(退去時積立金から徴収されます)



※入居者は寝具のレンタルが可能です
3,700円/月
※電気代、ガス代、水道代及び電話代は
使用量に応じて請求されます

○宿舎設備・備品
設備：浴室、台所、エアコン、インターネット、電話
備品：机、椅子、ベッド、洋服ダンス、冷蔵庫、本棚、その他

○宿舎周辺の生活情報、通学時間
大型スーパー、家電量販店、病院、郵便局、コンビニエンスストア等が全て徒歩約15分以内にある。大学に隣接しており、通学時間は約7分。



■修了生へのフォローアップ

Facebookに国際交流を目的とした卒業生と在学生が参加できるグループを立ち上げ、大学からの情報発信や、日本での生活や卒業後の進路等について参加者が自由に意見・情報交換を行うことができる場として活用している。

当プログラム修了生の多くは、所属大学に戻り学位を取得後、日本で進学や就職をしたり、母国で通訳・翻訳業務に従事したり、日本語を教えたりと、日本にかかわる活動を継続的に行っている。

■問合せ先

<担当部署>
埼玉大学 留学・国際交流課

住所：〒338-0825
埼玉県さいたま市桜区下大久保255

TEL：+81-48-858-3011（直通）
FAX：+81-48-858-9675
Email：ryugaku@gr.saitama-u.ac.jp

<ウェブサイト>
埼玉大学ホームページ
<https://www.saitama-u.ac.jp>

埼玉大学・国際交流のページ（日本語）
<https://www.saitama-u.ac.jp/international/>

埼玉大学・国際交流のページ（英語）
<https://en.saitama-u.ac.jp/>

X(Twitter)
<https://twitter.com/kokusaishitsu>

Instagram
<https://www.instagram.com/kokusaishitsu/?hl=j>
[a](#)

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

1) 1949年に発足した総合大学で、規模、内容とも国立大学法人の上位にあります。国際教養学部、文学部、法政経学部、教育学部、工学部、園芸学部、理学部、医学部、薬学部、看護学部に加え、2024年には情報・データサイエンス学部が新設されます。また、人文公共学府、専門法務研究科、教育学研究科、融合理工学府、園芸学研究科、医学薬学府、看護学研究科、総合国際学位プログラムなど17の大学院が置かれています。

- ・学部学生定員：9,732名
- ・大学院学生定員：3,093名
- ・教授、准教授、講師、助教、助手：1,263名

2) 日本社会のグローバル化を牽引する「スーパーグローバル大学」として、文部科学省の重点支援を受け、留学生の受入れや派遣を積極的に行ってきました。2023年5月現在、888名の留学生が学んでいます。来日から帰国まで、留学生の生活をサポートするインターナショナル・サポートデスクも設置されています。

<http://www.chiba-u.ac.jp/international/isd/>

3) 幅広い視野、批判的思考力、豊かな人間性を養うことを目指して行われる教養教育が充実しており、アクティブラーニング、協働学習を取り入れた授業が多数開講されています。

② 国際交流の実績

千葉大学は41カ国280大学と大学間交流協定を結び、活発に交流を行っています。2023年5月現在、協定校からの留学生が100名以上在籍しています。

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

2023年：留学生数 888人、日研生 5人
2022年：留学生数 861人、日研生 3人
2021年：留学生数 902人、日研生 7人

④ 地域の特徴

日本語・日本文化研修留学生が学ぶ西千葉キャンパス（千葉市）は、東京から電車で約1時間、成田国際空港から車で約45分のところにあります。人口約97万人の千葉市は、気候が温暖で物価も比較的安く、生活しやすいところです。また、千葉県は水と緑の豊かな自然に恵まれています。地域の環境については千葉県のホームページも参照してください。<http://www.pref.chiba.lg.jp/>

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

a) 主に日本事情・日本文化に関する研修

② 研修・コースの特色

1) 教育方針・特徴

日本語・日本文化を専攻し、将来にわたって日本研究を続ける意思のある留学生のためのコースです。日本の学生と協働して日本の文化・社会の多様性を学ぶことができ、グローバルな視点からクリティカルに日本を捉えられるようになります。チューター制度や語学交換プログラムなどを通して、日本人学生と交流を深める機会も十分にあります。

2) 研修内容

日本の文化・社会に関する授業の受講に加え、

日本について興味のあるテーマで調査研究を行います。アカデミックな日本語能力を養いながら、日本に関する専門的な知識を習得し、研究能力を高めていきます。

日本語学習については、各自の日本語レベルに応じた日本語コースに参加し、四技能（読む・書く・聞く・話す）を総合的に伸ばすことができます。

③ 受入定員

10名（大使館推薦6名、大学推薦4名）

④ 受講希望者の資格、条件等

- ・日本語能力試験N2合格レベル以上の日本語力を持ち、以下のようなことができること。
- *自分が興味のある話題で会話を続ける。
- *日本語で行われる留学生向けの基礎的な講義を理解し、演習に参加する。
- *漢字1000字以上を習得し、時々辞書を使いながら一般的な話題の文章を読む。
- *辞書を使わずに1000字程度の説明文、意見文を書く。
- ・日本に関係する特定の分野について研究上の関心を持ち、帰国後も研究を継続する意思のある学生が望ましい。



⑤ 達成目標

- ・日本の文化、社会の多様性を理解し、それらをグローバルな観点から捉えられるようになる。
- ・基礎的な学術日本語の運用力を身につけ、日本語を使って研究が進められるようになる。
- ・研究レポートを作成し、発表会で報告する。

⑥ 研修期間（在籍期間）

研修期間：2024年9月下旬～2025年8月下旬
（在籍期間：2024年10月1日～2025年8月31日）

※学年暦は4月から始まります。千葉大学はターム制を取っているため、最初の学期（秋学期）は第4ターム～第5ターム、2番目の学期（春学期）は第1ターム～第2タームとなります。各タームは7週間で、授業ごとにメディア授業が1回ずつあります。

⑦ 奨学金支給期間

2024年10月～2025年8月

⑧ 研修・年間スケジュール

9月下旬：来日前のオリエンテーション、及び日本語のインタビュー、渡日（2023年は9月20日）
10月： ウェルカムパーティー、対面でのオリエンテーション
11月： 日帰り見学旅行
12月： ホームビジット
12月： ユニバーサルフェスティバル
5月： 日帰りの見学旅行
6月： ユニバーサルフェスティバル
歌舞伎鑑賞教室
7月： 修了レポート発表会
8月： 修了式
8月下旬： 帰国（2023年は8月31日）

※このほかにも、CISG（千葉大学国際学生会）のメンバーになって活動したり、週1回パートナーと会って、お互いの言語や文化を教え合うLEXプログラムに参加したりすることができます。また、プログラム近隣の小・中学校などで行われる国際交流活動に参加して自分の言語や文化を紹介する機会があります。

⑨ コースの修了要件

必修の演習科目を4単位、選択科目18単位以上履修し、修了レポートを提出して合格と認められた者に修了証書を授与します。学習時間は概ね435時間以上になります。参加者への修了証書の送付は2025年10月中旬になります。

受講科目を登録し、合格の成績を修めた科目については、成績通知表を発行します。
※上記コース要件を定められた研修期間より早く修了した場合、早期修了が可能です。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

必修科目「特別研究（文系）A・B」は、9カ月かけて修了レポートを作成する密度の濃い授業です。専門の異なる5名の教員がゼミ形式で指導します。7月には公開発表会を開催し、その成果はレポート集として刊行しています。

これまでの修了レポートのテーマの例

- ・日本アニメにおける妖怪文化の変容
- ・日本語学習者同士の会話における終助詞「ね」「よ」の機能考察
- ・日本人のインドスイーツに対する受容性
- ・こと消費とポストこと消費時代
- ・日本神話における天孫降臨神話の由来について
- ・男性による育児休業取得の阻害要因に関する考察



千葉大学では副専攻「国際日本学」があり、日本の学生とともに日本について学ぶ機会が豊富にあります。

2) 研修・コース開設科目

I) 必須科目（2コマ）

特別研究（文系）A・B〔30・30〕：日本に関するテーマを自分で選んで、6000字以上の修了レポートを作成し、成果を口頭発表する。
※〔 〕内の数字は、授業時間数です。以下同じ。

II) 選択科目

以下の(1)日本語科目、(2)日本を学ぶ科目（人文科学系・社会科学系）を中心に、各自の日本語能力や興味・関心に合わせて科目を選択します。
(2)の科目はすべて日本人学生との合同授業です。

(1) 日本語科目

プレースメントテストを受けて、中級以上の4つのレベルのいずれかに入り、各学期3科目（3コマ～4コマ）以上受講します。通常、2学期目には一つ上のレベルに進みます。

日本語 500／中 級	総合〔60〕・口頭表現1〔30〕・口頭表現2〔30〕・文法〔30〕・文章表現〔30〕・漢字〔30〕
日本語 600／中 級後半	読解〔30〕・口頭表現1〔30〕・口頭表現2〔30〕・文法〔30〕・文章表現〔30〕・統合型〔30〕・漢字〔30〕
日本語 700／上 級前半	読解〔30〕・口頭表現〔30〕・文法〔30〕・レポートの書き方〔30〕・統合型〔30〕
日本語 800／上 級後半	読解〔30〕・口頭表現〔30〕・レポートの書き方〔30〕・統合型〔30〕

※500の総合のみ2コマの授業、それ以外は1コマの授業です。日本語500、600は各学期同じクラスが開講されます。

※日本語700、800は2024年度から科目編成が若干変更される可能性があります。最新情報は、以下のページを参照してください。

<https://jicr.chiba-u.jp/top.php>

(2) 日本を学ぶ科目（人文科学系・社会科学系）
日本イメージの交錯A・B〔各16〕：日本をめぐるイメージについて様々な素材・角度から議論する。

日本アジア文化交流史A・B〔各16〕：日本とアジア諸地域との文化交流を歴史的に振り返る。

近代日本のアジア観〔16〕：江戸末期から昭和戦後期までの日本の「アジア」観の特色を考察する。

特別研究（文系）C・D〔30・30〕：国立歴史民俗博物館との共同授業。各自の母国から同博物館を訪問する人に向けて展示案内（ワークシート）を企画し母語で作成する。

3) 研修科目で地域の見学や地域交流等の参加できる科目及び具体的な内容
カレッジリンク@ローカル〔30〕：市民と学生が一緒に受講し、地域の課題や問題を自分たちで考える。対象地域は年度によって異なる。

4) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容
以下の国際教養学部専門科目は、日本語・日本文化研修留学生を積極的に受け入れています。

日本の食文化〔16〕：戦後登場した食材あるいは料理を題材に、日本社会と食文化の関わりを概説する。

現代社会と民俗〔16〕：常識と思って行われてきた生活習俗や民俗の背景を考え、合わせて現代日本における価値観のなかで、その生活習俗や民俗の歴史的背景、現在的な意味を解釈する視点を学ぶ。

日本と宗教〔16〕：21世紀の日本にとっての主な課題と宗教との関連を解説しながら、事例を紹介し、学際的な視点からも論じる。

日本の言語文化〔16〕：日本語の特徴について、社会言語的側面、語用論的側面を踏まえ、他の言語と比較しながら掘り下げていく。

多文化共生教育論〔16〕：日本社会の多文化化の経緯、現状を把握し、多様な人々が共生する上での課題について教育という視点から考える。

以下の千葉大学シラバス検索システムで詳しい情報を見ることができます。
<https://syllabus.gs.chiba-u.jp/>

また、上記以外の千葉大学で開講されている一般学生向けの授業も、担当教員の許可が得られれば受講することができます。

⑪ 指導体制

国際教養学部所属する以下の教員がガイダンスや個別指導を通して学業面、生活面のサポートを行います。

吉野 文（専門：日本語教育学、応用言語学）
本間 祥子（専門：年少者日本語教育、海外子女教育）

■宿 舎

近隣の不動産会社等と連携して民間アパートを紹介しています。また、留学生の部屋探しをサポートする会社も紹介しています。ハウジングについて詳しくは次のウェブページを参照してください。

<https://www.chiba-u.ac.jp/international/isd/jp/housing/otheraccommodation.html>

○紹介物件の一例（2023年10月時点）
・費用

支払方法	店舗にてクレジットカード決済	
初期費用	3月日割家賃・共益費、 4月家賃・共益費など	約67,000円
毎月の費用	当月家賃・共益費、 前月光熱水費	約55,000円
退去後費用	退去月光熱水費	約8,000円

・設備・備品
冷蔵庫、電子レンジ、ミニキッチン（電磁調理器、戸棚）、洗濯機、ユニットバス、冷暖房、Wi-Fi等
※物件により、上記と一部異なります。

■修了生へのフォローアップ

日本語・日本文化研修留学生プログラムの修了者に対しては、個別に進路相談などの対応をしています。修了生の中には国の大学を卒業後、千葉大学をはじめとする日本の大学院に進学する人が少なくありません。

大学・大学院卒業後は、大学で日本語、日本文学の研究者となっている人、日本で就職している人、国の日系企業で翻訳・通訳に従事している人など、何らかの形で日本と関わりを持っている人がほとんどです。

■問合せ先

<担当部署>
千葉大学学務部留学生課
住所：〒263-8522
千葉県千葉市稲毛区弥生町1-33
TEL：+81-43-290-2193（直通）
FAX：+81-43-290-2198
Email：mext-scholarship@chiba-u.jp
<ウェブサイト>
千葉大学ホームページ
<http://www.chiba-u.ac.jp/>
<http://www.chiba-u.ac.jp/e/index.html>
千葉大学国際教育センターホームページ
<http://cie.chiba-u.ac.jp/>
<http://cie.chiba-u.ac.jp/index-e.html>
<コース内容に関する照会先>
吉野 文 大学院国際学術研究院 教授
Email：ayoshino@faculty.chiba-u.jp